

人文学の先端をめざす

名古屋大学文学部 大学院人文学研究科案内 2019

School of Humanities / Graduate School of Humanities 2019, NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学文学部 大学院人文学研究科への招待

文学部長・人文学研究科長 佐久間 淳一



文学部には21の分野・専門があり、学部2年次に進級する際、自らの関心と将来の志望に合わせて、主として学ぶ領域を決めてもらいます。どの分野・専門の授業も基本的に少人数で、教員や院生、先輩と身近に交流しながら勉強できるのが、文学部の特徴です。

人文学研究科には25の分野・専門があり、文学部で学べる人文学の基幹的な学問領域に加えて、より学際的な分野も学べます。研究科で学ぶ学問は、専門性がより高いことは言うまでもありませんが、複数の学問領域を跨ぐ形で学位プログラムが設定されていて、専門性と同時に、広い視野も身につけられるカリキュラムが、人文学研究科の特徴になっています。

高校までは、先生から一方的に教わる形の授業が多かったかもしれません。大学でも、学問の方法や研究の基礎などはきちんと学ぶ必要があるのですが、先生に教えてもらうという面がないわけではありませんが、教育の「育」には「育む」という意味があるように、大学や大学院では、自ら育む、つまり自ら学ぶことの方が大切です。

また、文学部・人文学研究科で学ぶ人文学には、先人が残してくれた知恵を文献や資料から読み取って、人類の叡智を将来に受け継いでいくという大切な使命があります。その使命の一端を担うためには、できる限り広い視野を持ち、様々な領域から知識を吸収することが必要です。

文学部・人文学研究科で学ぶ学問は、確かに、社会に出てすぐに役立つというものではないかもしれませんが、しかし、人文学は、人間の様々な営みを学ぶことを通して、人間とは何かを考え、人間の本質に迫ることを目指す学問です。人文学を学ぶことで、これから先の長い人生をどう生きていくべきか、その指針を得ることができれば、それは何物にも代えがたい財産となるはずです。

人間とは何か、という問いに興味のある人は、ぜひ名古屋大学の文学部・人文学研究科で学んでください。



文学部長・人文学研究科長あいさつ
名古屋大学文学部 大学院人文学研究科への招待

文学部について	02
人文学研究科について	03

分野・専門紹介

文芸言語学コース	言語学	04
	日本語学	05
	日本文学	06
	英語学	07
	英米文学	08
	ドイツ語ドイツ文学	09
	フランス語フランス文学第1	10
	フランス語フランス文学第2	11
	中国語中国文学	12
	日本語教育学	13
	英語教育学	14
応用日本語学	15	
哲学倫理学コース	哲学	16
	西洋古典学	17
	中国哲学	18
	インド哲学	19
歴史学・人類学コース	日本史学	20
	東洋史学	21
	西洋史学	22
	美学美術史学	23
	考古学	24
	文化人類学	25
	総合文化学コース	映像学
日本文化学	27	
文化動態学	28	
ジェンダー学	29	
環境行動学コース	社会学	30
	心理学	31
	地理学	32
	英語高度専門職業人コース	33
	国際・地域共生促進コース	33
	言語学・文化研究プログラム	34
	「アジアの中の日本」プログラム	34
	人類文化遺産テキスト学研究センター	35
	超域文化社会センター	35
	共通	36
	国際化推進室	36
	助教	37
	学芸員養成課程	37
先輩からのメッセージ	学部在学生・卒業生からのメッセージ	38
	大学院在学生・修了生からのメッセージ	39
社会へ	文学部	40
	大学院	41
国際交流	海外との交流	42
入学と勉強のために	文学部	44
	大学院	45

文学部のアドミッション・ポリシー

人文学分野の研究に取り組むのに必要な
基礎的な学力を備え、人間の営為としての言語・文化・歴史に
深い関心を持ち、社会・環境など
現代社会が抱える諸問題を考えることに意欲がある人を
入学者として選抜します。

人文学研究科のアドミッション・ポリシー

人文学の研究を通して世界の諸課題に取り組む
強い意欲を持ち、研究に必要とされる
専門知識と言語能力を備えていて、
研究対象を論理的、実証的に考察し、
その成果を的確に論述できる能力をもつ人を
入学者として選抜します。

教員詳細については、下記のアドレスまたは、QRコードで
人文学研究科 文学部 教員紹介を検索してください。
<http://www.hum.nagoya-u.ac.jp/teacher/teacher-sub1/>



文学部について

文学部の概要

名古屋大学は、9学部、13大学院研究科、3研究所、および数多くの共同教育研究施設からなっています。その中で、文学部は人文学系の学問分野を担う部局として、昭和23年度に設立され、平成30年度に設立70周年を迎えました。名古屋大学は、「自由闊達」を校風としていますが、文学部は其中でもとりわけ多様な学問領域を有し、自由で先端的な研究を展開しています。文学部では、こうした研究成果を踏まえ、少人数教育に重点を置き、きめの細かい教育を行っていることが特色です。

文学部が養成する人材像

文学部では、言語・文化・歴史に対する深い探究心と社会・環境への強い関心を持ち、高い異文化理解力を備えた人材、また、人文学的教養を通して、国際社会・地域社会の諸問題の解決に寄与する人材、そして、「高い異文化理解能力と言語運用能力」、「文献や資料を収集・読解・分析する能力」、「専門分野における基本的な研究方法を理解し、応用する力」、「論旨の一貫した文章構成能力とプレゼンテーション力」、「現代社会が直面する諸問題に専門分野の知見に基づき対応できる能力」を備えた人材を育成します。

一方、学問は多様性が大切です。各学問領域には固有の目標があります。人文学には多くの学問領域がありますので、それぞれの分野で目指すところを見据えて努力することと合わせて、全体を俯瞰する複合的な視点も求められます。

文学部のコース／分野・専門

文学部では、学問の多様性を反映して、固有の学問領域からなる21の分野・専門がありますが、これらを横断的・体系的に学んでいくために、分野・専門を4つのコースに編成しています(3ページ表1を参照)。

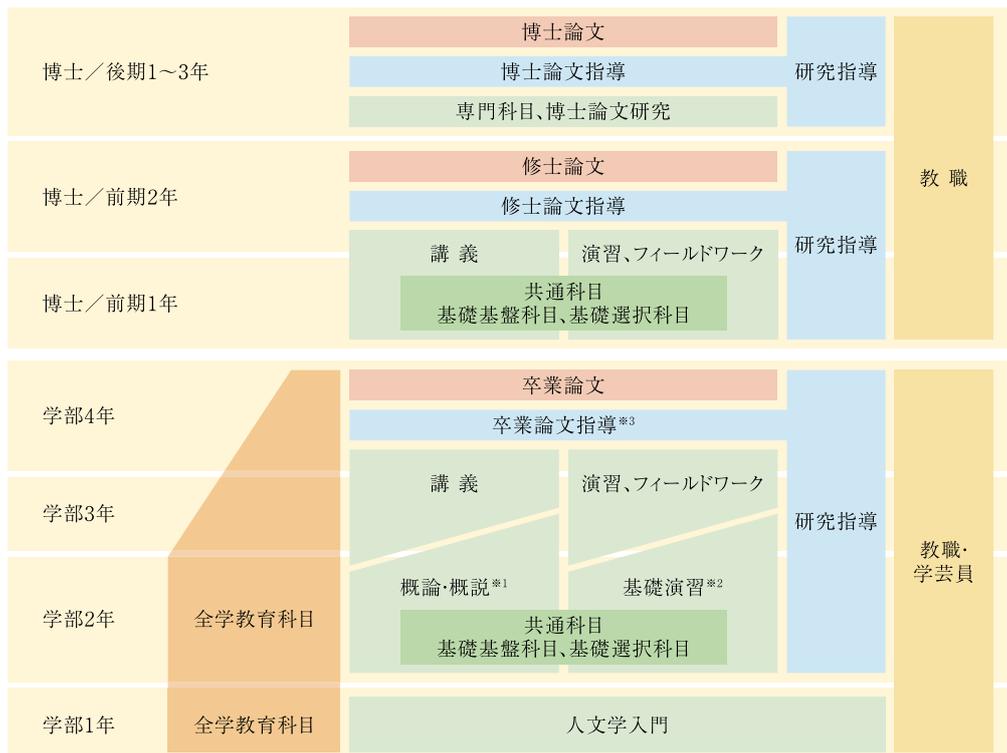
文学部における学び

名古屋大学に入学すると、1・2年次は国際化社会に対応するための外国語科目や、文系・理系の基礎的な力や幅広い教養を身につけるための科目などからなる全学教育科目を中心に履修します。一方、文学部独自の科目として「人文学入門」が1年次向けに開講されており、これにより、文学部にどのような学問領域があるのかを理解することができます。これを踏まえて、2年次になって、いずれかの分野・専門に所属して、当該分野の基礎的な力を身につけていきます。そして3年次以降、本格的な専門科目に取り組んでいくことになります。

専門科目には、各分野・専門固有の科目がありますが、学問領域を超えた共通科目もあります。この両者により、専門領域を深めていくとともに、いわゆるタコツボに陥らないよう、幅広い視野から専門の学問をとらえ直すことができるようになります。

専門科目は、大きく分けて講義系科目と演習系科目からなっています。これらの科目を履修することを通じて、研究の根拠となる資料を分析し、先行研究を批判的に読み解き、論理的に議論を展開して結論を導くための訓練を積んでいきます。その集大成となるのが卒業論文です。卒業論文では、自ら課題を発見し、これを解決して研究成果としてまとめることが求められます(2ページ図1を参照)。

図1 | コースツリー



注：※1 2年生、3年次編入生を主な対象とする。 ※2 2年生、3年次編入生を主な対象とする。 ※3 4年生を対象とする。

表1 | 学位プログラム／コース／分野・専門 |

文学部

人文学研究科

コース	分野・専門	学位プログラム	コース	分野・専門
文芸言語学コース	言語学、日本語学、日本文学、英語学、英米文学、ドイツ語ドイツ文学、フランス語フランス文学(第1・第2)、中国語中国文学	言語文化系学位プログラム	文芸言語学コース	言語学、日本語学、日本文学、英語学、英米文学、ドイツ語ドイツ文学、フランス語フランス文学(第1・第2)、中国語中国文学、日本語教育学、英語教育学、応用日本語学
哲学倫理学コース	哲学、西洋古典学、中国哲学、インド哲学		哲学倫理学コース	哲学、西洋古典学、中国哲学、インド哲学
歴史学・人類学コース	日本史学、東洋史学、西洋史学、美学美術史学、考古学、文化人類学	歴史文化系学位プログラム	歴史学・人類学コース	日本史学、東洋史学、西洋史学、美学美術史学、考古学、文化人類学
			総合文化学コース	映像学、日本文化学、文化動態学、ジェンダー学
環境行動学コース	社会学 心理学 地理学	(環境学研究科) (情報学研究科) (環境学研究科)		
		英語高度専門職業人学位プログラム	英語高度専門職業人コース*	
		多文化共生系学位プログラム	国際・地域共生促進コース*	
G30国際プログラム群	「アジアの中の日本文化」プログラム	G30国際プログラム群	「アジアの中の日本文化」プログラム* 言語学・文化研究プログラム*	

※博士前期課程のみ

人文学研究科について

人文学研究科の概要

人文学研究科は、昭和24年度設立の文学研究科、平成5年度設立の国際開発研究科国際コミュニケーション専攻、平成10年度設立の国際言語文化研究科という、人文学を担う2部局1専攻を再編統合して、平成29年度に設立されました。人文学研究科では、人文諸学に関する深い学識と幅広い理解を基盤とし、日本及び世界で活躍できる研究者・高度専門職業人、及び、高い言語能力と優れた異文化理解力を兼ね備え、国際社会及び地域社会の諸問題に対応できる人材、そして、「専門分野の研究方法に基づき、文献や資料を収集・分析し、そこから必要な情報を抽出し研究に活用する能力」、「自ら課題を発見し、研究のテーマを設定する力」、「確かな論理的思考力と豊かな文章表現力とプレゼンテーション力」、「国際的に活躍できる高い異文化理解能力と言語運用能力」、「現代社会が直面する諸問題に専門分野の知見に基づき対応できる能力」、「社会に人文学の叡智を還元できる能力」を備えた人材を育成します。

教育の特色

新生人文学研究科の教育面での特色は、4つの学位プログラム、6つのコースに基づいて、25の多様な分野・専門を編成し、学位取得までの体系的な教育プログラムを構成したことです(3ページ表1を参照)。分野・専門の専門的科目により個々の学問領域を深く究めると同時に、学位プログラムごと、コースごとに分野横断的な科目を履修することにより、俯瞰的な視座を身につけることができます(2ページ図1を参照)。

もう一つの特色は、教育を通じて社会貢献を図っていることです。例

えば、英語高度専門職業人学位プログラムでは、中学校・高等学校の英語教員のリカレント教育を行います。多文化共生系学位プログラムでは、国際的視野と異文化理解の能力を持った地域社会・国際社会でのリーダーを育成し、社会に送り出していきます。

また、文化資源学など、フィールドワーク関係の授業を充実させ、高度な能力を持った学芸員などを養成し、地域文化の価値を再発見し、これを幅広く発信できる人材を育成します。

研究の特色

本研究科の研究面での特色は、①「テキスト学の世界的研究拠点」②「言語学分野の結集」③「アジアとの研究交流拠点」の3点に整理できます。①については、旧文学研究科において採択された、21世紀COEプログラム「統合テキスト科学の構築」、グローバルCOEプログラム「テキスト布置の解釈学的研究と教育」の成果を継承し、新研究科においても附属センターとして人類文化遺産テキスト学研究センターを設け、これを拠点に研究を推進しています。②については、再編により言語学・応用言語学分野の研究者が1組織に結集したことを基盤とし、同分野における先端的、共創的、国際的共同研究を推進することを目指しています。③については、旧文学研究科での取り組みを継承し、「アジアの中の日本文化」研究センターおよびこれを発展的に改組した超域文化社会センターを拠点として推進するものです。また、旧文学研究科で「魅力ある大学院教育」イニシアティブに採択された「人文学フィールドワーカー養成プログラム」の成果を継承し、フィールドワークに基づく分野横断的研究を推進していることも特色です。

国際化への対応

文学部・人文学研究科は、留学生が多い点も特徴です。留学生との交流の中で国際理解の最初の第一歩としての経験を得ることができます。また、英語力強化にも取り組んでおり、これを踏まえて海外留学を積極的に促しています。

さて、名古屋大学では国際化への取り組みの一環として、英語で行われる授業だけを履修することで学位を取得できる教育プログラムであ

るグローバル30国際プログラム群(G30)を設けています。これに沿って、文学部では「アジアの中の日本文化」プログラムが、人文学研究科ではこれに接続する同名のプログラムと、言語学・文化研究プログラムがあります。これらのプログラムに出願できるのは外国人留学生および帰国子女に限られますが、一般の学生もこのプログラムの授業を受講することができますので、積極的に活用して欲しいと思います。



人間は言語を使う動物であり、人間がこれまで築き上げてきた文明は、言語なしでは考えられません。ですから、言語がもっているしきみを知ること、人間が自分を取り巻く世界をどのように認識し、どのような思考を形成しているのかを知ることができるわけです。その意味で言語学は人間を知るための最も基礎的な分野に属する学問です。

世界の言語は表面的にはそれぞれ異なっていますが、本質的には共通性をもっていると考えられます。言語学は、世界の諸言語を広く深く追求することによって、人間活動の基礎としての言語の本質的特徴を解明することを目標としています。

授業では、言語を分析するための基礎的な方法を学習します。そして同時に、それをできるだけ多様な言語に具体的に適用することによって、多様性の中に均質性が認められることを体験することにも力を入れています。そのためには、英語をはじめとする諸外国語にも関心をもつことが大切です。教員スタッフは、日本語、朝鮮・韓国語、フィンランド語、チュルク諸語、東南アジアの大陸部の諸言語等を専門としていますが、アイヌ語、インドネシア語、カバンパンガン語、コリヤーク語、アイスランド語など、さまざまな言語の専門家にも講義を依頼しています。

堀江 薫 教授

Ph.D. 言語類型論、日韓(朝)対照言語学、認知・機能言語学

- ・『言語のタイポロジー - 認知類型論のアプローチ』(共著、研究社、2009)
- ・『The Interactional Origin of Nominal Predicate Structure in Japanese: A Comparative and Historical Pragmatic Perspective.』 *Journal of Pragmatics* 44 (2012)

井土 慎二 准教授

Ph.D. 音声学、中央アジアやトルコの諸言語

- ・『Bukharan Tajik.』 *Journal of the International Phonetic Association* 44(1) (2014)
- ・『タジク語文法便覧』(東北大学出版会、2012)

佐久間 淳一 教授

文学修士 統語論、フィンランド語学

- ・『言語学入門 これから始める人のための入門書』(共著、研究社、2004)
- ・『フィンランド語のすすめ 初級編』(研究社、2004)

大島 義和 准教授

Ph.D. (Linguistics) 意味論、日本語学

- ・『主要部を持たない日本語従属節 - 「シテ」「言ッテ」「思ッテ」の不在 -』 *言語研究* 151 (2017)
- ・『On the Morphological Status of *-te*, *-ta*, and Related Forms in Japanese: Evidence from Accent Placement.』 *Journal of East Asian Linguistics* 23 (2014)

加藤 高志 准教授

文学修士 フィールド言語学、東南アジア大陸部の諸言語

- ・『Linguistic Survey of Phong Language in Lao P.D.R.』(Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, 2013)
- ・『タイ文化圏の中のラオス:物質文化・言語・民族』(共著、慶友社、2009)

宇都木 昭 准教授

博士(言語学) 音声学、音韻論、朝鮮・韓国語と日本語の諸方言

- ・『朝鮮語ソウル方言の韻律構造とイントネーション』(勉誠出版、2013)
- ・『Merger-in-Progress of Tonal Classes in Masan/Changwon Korean.』 *Language Research* 45 (2009)

博士論文

中国語のモダリティ表現の接続詞化と談話標識化に関する通時的構文法的研究-日本語との対照を交えて- / <実現>を表す視覚動詞「みる」の認知言語学的研究-コーパスに基づくアプローチ- / 聞き手領域に対する配慮が言語形式の選択に与える影響-テクレル・テモラウ及びノダ文・非ノダ文の場合- / 韓国語の文末名詞化構文・連体終止形に関する認知類型論的研究-日本語との対比を通じて- / マレーシア語と日本語の対照会話研究-あいづちとその出現環境を中心に- / フィンランドのA不定詞基本形と受動現在分詞による修飾 / 原因・理由文における日中対照の定量的分析-カラ・ノデを中心に- / ベトナム語の否定表現 / ベトナム語の名詞修飾表現 / スンダ語の受け身構文について:日本語の「(～)れる」との対照を通じて

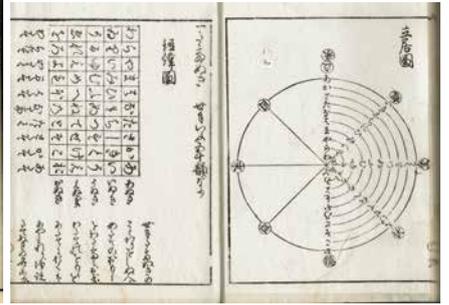
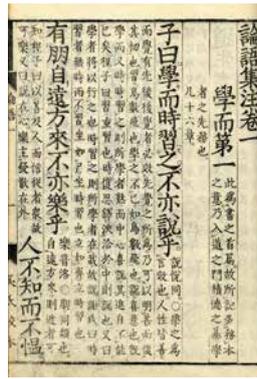
修士論文

認識のモダリティ「かもしれない」の拡張用法に関する機能主義的研究-韓国語「-것 같다(-kes kaththa)」との比較を通して- / 中国語のモーダルマーカー“必須”における意味・機能変化-文法化と類型論の観点から- / 「という」「っていう」の用法について:文末表現を中心に / 原因・理由を表わす接続助詞の対照研究:「から」「ので」を中心に / 日本人大学生の非外来語のカタカナ表記の使用実態と表記意識 / 不満表明の日中対照研究:性差を中心に / 日本語心理動詞の時間的解釈について / 日本語指示詞の情意的用法について-「この」「その」「あの」を中心に- / 日本語母語話者による韓国語パラ言語情報の知覚 / 延辺朝鮮語を母語とする日本語学習者における日本語と朝鮮語のアクセント

指導可能領域

音声学 / 音韻論 / 形態論 / 統語論 / 意味論 / 語用論 / 言語類型論 / 歴史言語学 / 社会言語学 / 対照言語学 / 認知・機能言語学 / フィールド言語学 / 文法化研究 / 言語接触研究





日常談話や方言などの「ことば」は人間にとって最も身近な現象です。「ことば」としての日本語に関心を向け、文法や語の意味あるいは音声がどのようなしくみを持つか、意思の伝達にどうかかわるか、その歴史的由来は何かと考える。こうした問いが、日本語研究の中核をなしています。

また日本語がなぜどのように研究されてきたか、その意義や動機から研究の根源的基盤を問う学説史、権力が言語をいかに管理し社会がこれとどうかかわるか、また地理的・社会的な条件の違いによって日本語にどのような多様性があり、どう使い分けられるかに関心を置く社会言語学も重要な領域です。日本語の資料は5世紀に遡り、8世紀奈良時代語以降、体系的な復元が可能です。平安時代以後も文学作品や古文書、訓点資料、

古辞書、講義資料、外国資料などがあり、変化の過程の追究も盛んです。日本語研究は、鎌倉時代の古典注釈に源を発し、文語の「てにをは」と「仮名遣い」という技術に磨きをかけて発展してきました。近世以後は、論証の緻密さと合理的推論に特色を発揮して急速な発展を遂げ、近代になって西洋の言語学を導入した後も、伝統的知識を継承しながら人文科学の中で個性的な重みを持つ学統として今日に至っています。現代の日本語学は、言語にかかわる人間行動の根本の仕組みを復元する広い視野を獲得しています。その重要性和学問的関心をますます高めつつあるといってよいでしょう。

釘貫 亨 教授

博士(文学) 古代語音韻論・形態論・学説史

- ・『「国語学」の形成と水脈』(ひつじ書房、2013)
- ・『近世仮名遣い論の研究—五十音図と古代日本語音声の発見』(名古屋大学出版会、2007)

宮地 朝子 准教授

博士(文学) 文法史、文法論

- ・『日本語助詞シカに関わる構文構造的な研究』(ひつじ書房、2007)
- ・『日本語史研究と文法性判断』『日本語文法』17-2(2017)

齋藤 文俊 教授

博士(文学) 日本語史、漢文訓読

- ・『漢文訓読と近代日本語の形成』(勉誠出版、2011)
- ・『漢文資料を読む(日本語ライブラリー)』(共著、朝倉書店、2013)

博士論文

受益・受害構文の歴史的研究／現代日本語の自発に関する研究／格交替を許容する日本語感情動詞の格体制についての研究／現代日本語における形容詞的動詞をめぐって／現代語「ばかり」の諸用法／古代日本語における動詞連接の研究／室町時代から明治時代初期までの促音の表記に関する研究／日本語論説文の文章構造／古代日本語文における現実領域・非現実領域に関する研究／日本の国語教育における五十音図の役割

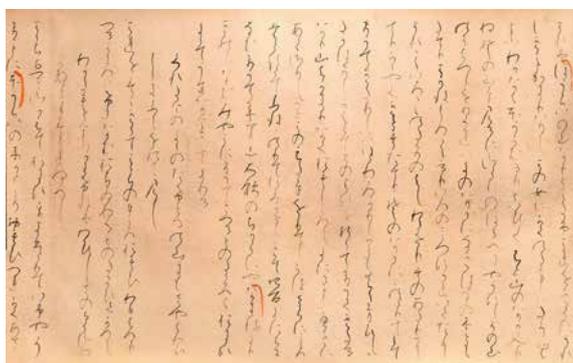
修士論文

終戦直後の国語施策の展開／機能語ヤラの成立と変遷／副詞「きっと」の機能変化／副詞ヤガテの用法変遷／形式名詞の即時的意味獲得の過程について／動作の困難さを表す派生形容詞について／程度副詞「まあまあ」「まずまず」「そこそこ」の評価性／現代日本語「なんちゃって」をめぐる記述的研究／可能動詞の成立と展開／使役文の通時的な研究

教員からのメッセージ

学部から大学院後期課程までの所属学生が切磋琢磨しあう研究室体制です。広く日本語学全般を指導可能領域としますが、特に大学院では、歴史的な問題意識に基づく課題の設定と追究を重視し、特長としています。





日本文学研究室は、現在、中古文学と近世文学を専門とする2名の教員から構成されている。また、他研究室に所属する中世文学、近現代文学を専攻する教員とも緊密に連携しつつ、研究・教育を推進している。古代から近現代にいたる様々な作品・作家・ジャンルを扱うが、必ずしも日本語で書かれた作品や、日本語を母語とする作家に限定しない。日本人による漢詩文や、外国人の書いた日本語の作品も重要な研究対象となる。これらの作品や作家を分析・解釈する方法もまた多様であり、過去からの膨大な蓄積を有しているのが日本文学研究の特徴でもある。実証性を重視する伝統的な学風に立脚しつつも、近年の批評理論などの成果も導入して研究の刷新と活性化をはかっている。いずれにしても書誌学・文献学の幅広い知識と、本文の正確な読解力・分析力は必須であり、研究室ではこうした基礎学力の修得と養成を重視している。

塩村 耕 教授

博士(文学) 近世俗文学

- ・『こんな本があった!江戸珍奇本の世界』(家の光協会、2007)
- ・『近世前期文学研究—伝記・書誌・出版—』(若草書房、2004)

大井田 晴彦 准教授

博士(文学) 平安朝物語文学

- ・『竹取物語 現代語訳対照・索引付』(笠間書院、2012)
- ・『うつほ物語の世界』(風間書房、2002)

博士論文

平安期における小野小町享受／『雲隠六帖の研究』／古俳諧研究／都賀庭鐘における漢籍受容の研究／シカゴ美術館の起源と所蔵和古書 など

修士論文

寺社縁起の成立と伝播の研究／上田秋成初期浮世草子における西鶴の受容／西鶴武家物における典拠利用の総合的研究／『磔溪猿馬記』研究／『源氏物語』と私家集／地名を中心とした上田秋成の研究 など

講義題目

日本文学研究の方法／日本書誌学研究／西鶴研究／源氏物語演習／明治期の文学作品と出版／中世の和歌と連歌／徒然草研究／中世人の連想の世界／王朝文学演習／王朝和歌の諸問題 など





創設以来、当専門における研究と教育の基盤は英語の共時的研究と通時的研究の実証面と理論面からの自然な融合にあり、個人は別としても、専門全体としてこのような方針を維持している例は世界的にも極めて少ない。近年では、こうした特色が内外の関連学会において広く認知されている。

英語はゲルマン語派に属する言語であるが、1066年のThe Norman Conquest以降、約300年もフランス語がブリテン島支配層の言語であったという歴史的事実を見ても分かる通り、英語は数奇な歴史の変遷を辿ってきた。他方、今日では世界の「共通語」として世界各国で使用され、多種多様な英語の方言が生じてきている。このような言語であるからこそ、共時と通時の両方からのアプローチが必要とされる。

20世紀後半の米国の言語学者N. チョムスキーによって提唱された生成文法理論の輪郭が見えてきた段階で、言語研究の焦点が現実の言語運用を可能にする人間頭脳の内的構造に移行すると、英語学の分野でも母語話者の内的言語能力を追求する認知科学的研究が進んだ。当専門もこの点に注目し、一般言語理論の研究を進めると同時に、現代英語の電子コーパスだけではなく史的電子コーパスも導入し、英語に関する言語事実の観察を重視しながら、共時的研究と通時的研究の融合を目指している。

英語学の論文作成には、英語母語話者からの発話データの収集も重要であり、実用的な英語力を身につけることも当然ながら求められる。

大室 剛志 教授

文学修士、教育学修士 生成文法、一般言語理論、英語意味論・統語論

- ・『動詞と構文』(研究社、2018)
- ・『概念意味論の基礎』(開拓社、2017)

田中 智之 教授

文学修士 生成文法、(史的)統語論

- ・“The Rise of Lexical Subjects in English Infinitives,” *Journal of Comparative Germanic Linguistics* 10 (2007)
- ・『統語論』(編著、朝倉書店、2013)

大名 力 教授

教育学修士 生成文法、言語学の方法論、英文法、英語書記体系論

- ・『英語の文字・綴り・発音のしくみ』(研究社、2014)
- ・『コーパスからわかる言語変化・変異と言語理論』(共著、開拓社、2016)

秋田 喜美 准教授

博士(学術) 認知言語学

- ・“A Constructional Account of the ‘Optional’ Quotative Marking on Japanese Mimetics,” *Journal of Linguistics* 52 (2016)
- ・*Ideophones, Mimetics, and Expressives: Theoretical and Typological Perspectives* (共編、John Benjamins、近刊)

博士論文

Synchronic and Diachronic Aspects of Adnominal Past Participles in English/A Synchronic and Diachronic Study of *That*-clauses in English/Synchronic and Diachronic Aspects of Locative Inversion and Negative Inversion in English/An Internal and External Syntax of Noun Phrases in the History of English/A Synchronic and Diachronic Study of Gerundive and Participial Constructions in English/A Minimalist Approach to Preposition Stranding and Pied-Piping in English/A Diachronic Study of Passives in English/A Minimalist Approach to Ellipsis in the History of English/A Diachronic Study of the Structure of English Noun Phrases/A Synchronic and Diachronic Study of Light Verbs in English: With Special Reference to Grammaticalization

修士論文

A Synchronic and Diachronic Study of Doubly Filled Comp in English Relatives/A Study of Quotative Inversion in English/On the Development of the English Auxiliary *Ought*/A Diachronic Study of Control and Raising in English/The Story of *As*: How Its Various Meanings Are Derived/A Study of Sluicing and Its Variations/A Syntactic Study of (Pseudo)Cleft Sentences in English/A Syntactic Study of Floating Quantifiers

講義題目

英語学概論/生成文法入門/英語音声学/英語史/英語学講義/英語学演習/英語学特論/英語学特別研究/英語学総合演習/英語学理論演習/共時英語学演習/通時英語学研究/博士論文研究 など





英米文学研究室は、開学以来優れた人材を輩出してきた伝統ある研究室の一つです。

英米文学研究史を紐解くと、文学の読み方が変化してきたことが分かります。時代とともに新しい文学が生み出され、同時にその解釈の方法やアプローチの仕方も大きく揺れ動いてきました。しかしながら、その解釈の揺れは豊饒な知の基層の積み重ねから生み出されてきたものです。文学を構築していることばも様式も多様ですし、さらにはそれを育む文化も多様です。それらを解釈する際には、読み手の鋭敏な感性と自由な知性、そして強靱な教養が必要になってきます。ことばの世界への大いなる飛翔、たゆみない知性の鍛錬と果てしない叡智の追求、そしてあくなき自己充足の

プロセスが「文学を読む」という行為に包摂されています。

この研究室では、英米圏の文学作品の中に新しい世界を追い求めています。英語で書かれた過去の言説の内奥には、日本人が思いもよらない世界観がぎゅっと積もっています。その地層を掘り起こしていくことで、我々も厚い「知層」を積み上げていくことができます。つまり、新たな価値観を手にし、客観的な視座から現代社会について批判できる能力を養い、「知平線」ともいうべき知の水平線を海の向こうにまで遠く広げていくことができるのです。

英語を駆使しながら、一緒に知の冒険をしてみませんか？

滝川 睦 教授

修士(文学) 16・17世紀イギリス文学、英国文化史研究

- ・「境界線上の文学—名古屋大学英文学会第50回大会記念論集」(共編著、彩流社、2013)
- ・「英米文学における父の諸変奏—安田章一郎先生百寿記念論集」(共編著、英宝社、2016)

長畑 明利 教授

文学修士、MA アメリカ文学

- ・「『偏狭さ』に抗して—エズラ・パウンドの「ルネッサンス」構想」『アメリカ研究』47(2013)
- ・「語り明かすアメリカ古典文学12」(共著、南雲堂、2007)

松岡 光治 教授

文学修士、M.Phil. ヴィクトリア朝文学・文化史・社会史

- ・*Evil and Its Variations in the Works of Elizabeth Gaskell* (編著, Osaka Kyoiku Toshō, 2015)
- ・「ギヤスケル短篇集」(編訳、岩波文庫、2000)

博士論文

Lost and Emerging Manhoods in Melville's Later Novels/Ernest Hemingway and East Asia: Japanese and Chinese Influences on His Writings/〈他者〉への共感と対話—エリザベス・ギヤスケルの小説における〈語り〉の可能性/Between Counterculture and Consumerism: Transformations in Presentation of Beatniks in American Comics since the 1950s/Urban Pastoralism in Theodore Dreiser's Works/ギヤスケル文学における母娘関係と女性の生き方—女性の持ち場と価値観の変容/Givers in Exile: Americanization, Gender, and Reciprocity in the Works of Anzia Yezierska/ディケンズの想像力にみる増殖と繁茂/女性とミッション—1780~1860年の英国における宗教的使命感と女性の役割/ディケンズの歴史観—「バーナビー・ラッジ」、「二都物語」、「子供のための英国史」研究

修士論文

J. R. R. Tolkien's Art of Fantasy and Sub-Creation: On Fairy-Stories, *The Hobbit*, and *The Lord of the Rings*/*Jane Eyre* in Japanese/Time Travel with Unconsciousness in *Tom's Midnight Garden*/A Study of *The Nether World* by George Gissing: Leisure Activities and their Influence on the Working Class/Identification and Identity in *Tom Brown's Schooldays*/The Function of Memory in Lois Lowry's *The Giver* and *Number the Stars*/Through the Delicately-Scented Chamber: An Analysis of Odour, Orientalism, and Spatiality in *The Picture of Dorian Gray*/Narrative Devices in *The Mayor of Casterbridge*/Ambivalence in the Treatment of American Idealism in Richard Brautigan's First Three Novels/The Allegorical Imagery of Clothes and Behaviors in *The Chronicles of Narnia*

指導可能領域

英語圏文学/イギリス小説/英詩/シェイクスピアを含むイギリス演劇/イギリス社会史・文化史/英米児童文学/アメリカ小説/アメリカ詩/アメリカ演劇/アメリカ文化史/文学批評理論/トランスレーション・スタディーズ

上原 早苗 教授

文学博士 イギリス小説、トランスレーション・スタディーズ

- ・"Hardy in Japan: Translators, Translation, and Publication," *Literature Compass* 13.3 (2016)
- ・*Silence* (編著, ARM, 2017)

渡辺 美樹 准教授

文学修士 児童文学

- ・「タイトルとしての羅生門」『児童文学論叢』19(2015)
- ・「吸血鬼と心的外傷について」『児童文学論叢』16(2011)





ドイツ語で書かれた文学と一口に言っても、作者たちの出身地は、現在のドイツ国境の内側に限定されるものではありません。20世紀前半までは、ドイツ語話者が暮らす地域は広汎であり、現在のスイス・オーストリアはもちろんのこと、東欧・ロシアにまで及んでいました。そこには、社会や政治の情勢の中で、ドイツ語を学ぶ必要があった人たちもいれば、自らの意思でコミュニケーションや表現のメディアとしてドイツ語を選択した人たちもいます。こうした現象は、ドイツ統一後の中部ヨーロッパにおいて再び顕著になっています。また現代のドイツは移民大国でもあります。ドイツ文学は、決して単一の言語体系に規定されたテキストとしてではなく、母語と他者の言語と

が越境し合い、緊張をはらんだ混淆が織りなす言葉のシンフォニーとして生成し続けています。

作者たちが残したドイツ語との格闘の跡をたどることは、私たち自身がドイツ語と格闘することでもあります。そこに、文学、哲学、現代思想、音楽、美術、舞台芸術などの専門的視点からの考察を加えることにより、ドイツ語を共通項とする国々の文化の特色を明らかにすることができます。ドイツ語ドイツ文学分野では、確たるドイツ語の知識を有し、ドイツ語圏文化を深く理解する人材の育成を目指します。

藤井 たぎる 教授

修士(文学) 西洋音楽思想、オペラ史、新ウィーン楽派と現代の音楽

- ・「ルルという名の欲望—資本制と愛のマイノリティ状況」『比較マイノリティ学』4 (2013)
- ・「資本の限界、調性の限界」『Autres:多元文化研究』9 (2018)

西川 智之 教授

修士(文学) 世紀転換期ドイツ語圏の芸術誌・芸術運動、ナラトロジー

- ・『世紀転換期ドイツ語圏の芸術誌の諸相』(共著、日本独文学会研究叢書、2014)
- ・『西洋近代の都市と芸術 第4巻 ウィーン—総合芸術に宿る夢』(共著、竹林舎、2016)

中村 靖子 教授

博士(文学) リルケ、トラークル、フロイト、マックス・フリッシュ

- ・『フロイトという症例』(松籟社、2011)
- ・『妻殺しの夢を見る夫たち』(松籟社、2013)

博士論文

フランツ・カフカにおける〈Spiel〉をめぐる考察／生の周囲に構築される抑圧的な檻 — フランツ・カフカの〈動物物語〉をめぐる／エルフリーデ・イェリネクの初期作品における言語の身体性／グリムのメルヒェンの改編 — 民間伝承から文学作品への行程／エアラス・カネッティ『群衆と権力』の軌跡

修士論文

エアラス・カネッティ『猶子された者たち』における権力構造／ファウスト救済の再評価 — ゲーテのスピノザ理解を通じて／ゲーテ『親和力』におけるオッティエーリエの聖別に関して／非分離前綴りbeの意味的・統語的考察／カフカにおける「痛ましさ」について — 『流刑地にて』の時代性／自己に忠実であること — エルンスト・ユンガー『大理石の断崖の上で』に見る政治的決断／倫理的なものと美的なもの — ムージルの小説とエッセイを貫く思想／イタリア紀行試論 — ゲーテの自然研究とカントの『判断力批判』をてがかりに環境記述について考える／トルコ系移民作家 Yade Kara の作品におけるマイクロアグレッションと Mehrweltmenschen というあり方

指導可能領域

ドイツ語文学／ドイツ語学／ドイツ語詩／物語論／スイス戦後文学／フロイト研究／文学と舞踊／舞踊史／身体文化研究／世紀転換期の芸術／音楽哲学／前衛芸術論／記憶論／翻訳論／文学批評理論

山口 庸子 准教授

博士(学術) 近現代ドイツ文学、文学と舞踊、舞踊史、身体文化

- ・『踊る身体—モデルネの舞踊表象』(名古屋大学出版会、2006)
- ・"Puppen, Wachsfiguren, Micky-Maus: Räume der leblosen Leiber als Denkbilder der Simultaneität im Werk von Walter Benjamin," *Simultaneität-Übersetzen* (Stauffenburg, 2013)

安川 晴基 准教授

修士(文学) 近現代ドイツ文学、想起の文化、翻訳論

- ・「ホロコーストの想起と空間実践」『思想』1096 (2015)
- ・ヤン・アスマン『エジプト人モーセ』(単訳、藤原書店、2017)

コンラード・マルクス 准教授

Dr. phil. 近現代ドイツ文学、特に18世紀欧州啓蒙思想との関連、レッシング、ハイネ、プレヒ

- ・*Geschichte(n) und Geschäfte. Die Publikation der 'Allgemeinen Welthistorie' im Verlag Gebauer in Halle 1744-1814* (Harrassowitz, 2010)
- ・"Teleologie und Systemdenken. Geschichtsauffassungen der Spätaufklärung und die Wechselbeziehungen zwischen Geschichtstheorie und Literatur," *Neue Beiträge zur Germanistik* 154 (2017)





フランス語・フランス文学第1研究室は、その名の表す通りフランス語とフランス文学を二つの柱として、3名の教授と1名の准教授の一致協力ののもとで、学生の教育、研究指導に当たっています。2019年度からは、新たにフランス語ネイティブ教員1名を含む2名の准教授が着任する予定です。

フランス文学の領域では、教員の専門分野に偏らず、中世から21世紀まで幅広く指導できる体制を整えています。卒業論文、修士論文、博士論文のテーマとしては、これまでに、ボードレールやランボーといった詩人たち、バルザックやフローベールなどの小説、モリエールの演劇、ソシュールやバタイユなどの現代思想やキリスト教文化、映画などが取り上げられました。今後は中世から16世紀にかけての論文も出てくるのが予想されます。また、フランス語学の領域では、語彙論、統語論、意味論などの様々

な観点からフランス語の仕組みをダイナミックに解き明かします。さらに、日仏対照言語学や翻訳の問題も随時取り入れ、フランス語の特質を、特に日本語との比較において相対的に観察する目を養います。

学部生については、フランス語の能力を高めることに主眼を置きつつ、そこから文学や言語の世界への入門にご案内します。また、博士前期課程と後期課程では、フランス語で書かれた文献や文学作品を読み解いたり、コーパスを用いた言語分析を行ったりする本格的な研究をサポートします。

研究室は自由闊達な雰囲気が特徴で、夏季合宿などを通して相互の親睦を深めています。卒業生は、教員、公務員、民間企業で活躍したり、大学院に進学して研究者になったりしています。

松澤 和宏 教授

文学博士、博士(文学) 19, 20世紀フランス文学、言語思想、現代思想、キリスト教思想、比較文学

- ・*Dictionnaire Flaubert* (共著、Classiques Garnier, 2017)
- ・『ボヴァリー夫人』を読む—恋愛・金銭・デモクラシー— (岩波書店, 2004)

藤村 逸子 教授

博士(言語学・音声学) フランス語学

- ・“L'énigme de l'ordre des mots : « femme + noms d'humains »” *Linx* (2018, 印刷中)
- ・『言語研究の技法 データの収集と分析』(共編著、ひつじ書房, 2011)

博士論文

ビエール・ジャン・ジュヴの詩作品における色彩語の研究 / テオフィル・ゴーテとスペイン文化の受容から創作へ / クレチアントロワの物語にみるイロニー—修辭学的研究から神話学的研究— / 小説から演劇へ—レーモン・ルーセル『アフリカの印象』の翻案劇をめぐる / ロートレアモン『マルドロールの歌』及びイシドール・デュカス『ボエジー』のレクチュール—1970年代における両作品の受容史 / バルザックの作品制作詩学—『パリ』における田舎の偉人』の生成論的読解の試み— / シャルル・ペロー『古代人近代人比較論』と新旧論争 / 第二帝政下におけるボードレールの詩学: 挫折した詩集『冥府』を通して / バルザック『あら皮』—幻想に隠された広大な構想— / フローベールの写実主義とグロテスクの(美)

修士論文

ラ・フォンテーヌと絶対王政—『寓話』に描かれた王の権威 / トックヴィルとフランス革命幻想 / バルザック『あら皮』論 / バルザックとフローベール / 『ゾラ』における信仰の喪失について / ステファヌ・マルメと『賽の一振り』再考 / ジャポニスムの政治性 / アンドレ・ジッド『法王庁の抜け穴』に見る風刺的描写 / ポール・クロデルと日本 / フランスのコレージュ教科書における童話の教え方

小栗栖 等 教授

博士(文学) 中世フランス語フランス文学 (12-16世紀)

- ・書評 “Le compte rendu du livre Marjorie Moffat, «The Châteauroux version of the Chanson de Roland»,” *Zeitschrift für romanische philologie* 132 (3) (2016)
- ・口頭発表『「ロランの歌」のテキストについて』国際中世叙事詩学会日本支部研究報告会 (2017)

奥田 智樹 准教授

修士 フランス語学

- ・「フランス語と日本語における必然性の意味を伴う名詞修飾表現」『フランス語学の最前線5【特集】日仏対照言語学』(ひつじ書房, 2017)

学生からのメッセージ

私たちの分野の特徴は、複数の先生方から幅広い研究指導を受けることができる点です。私自身、ご専門の異なる先生方からいつも新たな気付きのヒントをいただき、より充実した研究に繋がっていると感じています。(博士後期課程2年 伊奈友梨子)





古来ヨーロッパにおける異文化交流の中心地の一つであるフランスでは、豊かな文化が華開き、明治以降の日本の文人や芸術家に大きな影響を与えています。また音の美しさを追求しつつ構築されたフランス語の響きは私たちに魅了してやみません。その一方で、様々な民族を受け入れ続ける土壌ゆえに、軋轢や変動を経た歴史をもち、今日でも激動の世界情勢の中で深刻な問題に直面しています。論理性と言葉の正確さを追求しつつ対話を重んじ、批判精神と分析力を特徴とするフランス的エスプリが生まれたのは、こうした背景があるといえるでしょう。

文学作品は、社会や文化の諸相を学ぶ主要な資料として位置づけることが可能です。人々の暮らしぶり、考え方、感じ方を如実に表すのは、そ

の当時書かれた小説や詩ではないでしょうか。私たちの研究室では、フランス及びフランス語圏の各時代の小説、詩、戯曲、随筆、評論等を原文で正確に読解するための語学力の習得を第一目標とし、フランス語コミュニケーション力の向上も重視しています。また、映画、美術、音楽などの教材も駆使してフランスとヨーロッパの文化の知識と理解を深めます。少人数での徹底的な指導が特色です。学生はDELFやTCF等のフランス語能力検定や留学に前向きに取り込み、各自の興味に応じて他専攻の授業も積極的に受講し、新たな文学・文化研究の手法を模索しています。大学院ではさらに専門的な読解と議論の技法を習得します。

加藤 靖恵 准教授

docteur (littérature et civilisation françaises)

19-20世紀フランス文学、美術批評、テキスト生成研究

・«Elstir et Émile Mâle : le discours sur l'église de Balbec dans le Cahier 34», *Proust et les Moyen-âges* (Hermann, 2015)

・«Les goûter sur la falaise : montage de l'histoire des jeunes filles pendant les années 1914-1918», *Bulletin d'informations proustiennes*, n°45 (2015)

卒業論文

アンドレ・ジイドとジャン＝ルイ・バロー:戯曲『審判』をめぐって／フランス語の言語的特性:他言語との比較を通して／『居酒屋』のリアティエを巡って:ドニ・プロ『崇高なるもの:19世紀パリ民衆生活誌』との比較／モーパッサン『脂肪の塊』における娼婦の愛国心／ユゴー『レ・ミゼラブル』における家族の問題／恋愛物語としての『星の王子さま』／レバノン出身フランス語作家アミン・マアルーフ『Les Échelles du Levant』におけるアイデンティティ観／『失われた時を求めて』における死へのまなざし／『オペラ座の怪人』における色彩と明暗に隠された怪人の愛／マルグリット・デュラス『ロル・V・シュタインの歓喜』考察:叫びと沈黙、そしてエクリチュール／モリエール『病は気から』の小間使に關して

修士論文

ルネ・ヴィヴィアン『ひとりの女がわたしのもとに現れた』:自伝的小説の二つの版を巡って／デュラス『愛人』における家族の問題／アンドレ・ジイド『狭き門』における自己犠牲の分析／バルザック『ゴリオ爺さん』における視覚の働きについて／ユゴーと魯迅の比較研究

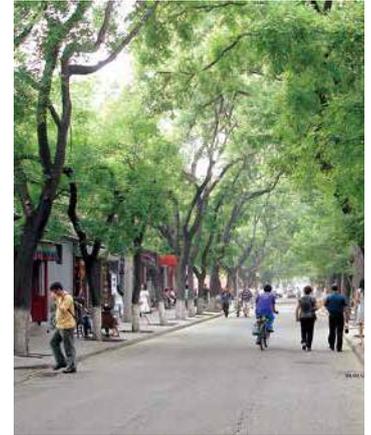
講義題目

フランス文学講読基礎(仏作文・コクトー・ボードレール)／遠藤周作『留学』のフランス文化論／ブルースト『囚われの女』における恋愛と芸術／ゾラ『ナナ』読解／クロード・シモン読解／Gérard Genette, *Discours du récit*精読／Langue et cultures

研究室行事

フランス語講演会「現代フランス詩における植物」(2017)、「ジャック・ルーボーと日本の詩」(2018)、「ブルーストと中世キリスト教芸術」(2018)／講演会と茶話会「キャリアってなんだろ?」(2017)／郡上高原合宿(論文中間発表会とフランス語特訓)／クリスマス会／フランスチーズ試食会／フランス絵画鑑賞会／その他随時読書会、勉強会など





「中国文学」は「漢文」とは少し違います。「漢文」は日本の古典ですが、「中国文学」は外国文学です。文語体で書かれた詩や小説も、口語体で書かれた小説や戯曲も、現代中国語で書かれた作品も、等しく外国文学です。この研究室では、約2500年前に編纂された最古の詩集から始まり、詩、小説、戯曲、現代文学作品にいたるまで、多彩な文学を学べるとともに、文字学を中心とする古典中国語学から文法を中心とする現代中国語学まで、幅広く学ぶことができます。

20世紀に西洋から近代的な研究方法が入ってくると、文学では膨大な作品が新たな手法で研究されるようになり、中国語も文法やさまざまな言語現象を体系的に研究する時代へと飛躍しました。現在進行形で発展する

研究方法も取り入れながら、現代に生きるわたしたちが、長い歴史を持つ中国語学・中国文学を学ぶ意味を、一緒に探しませんか。

学部で中国語中国文学の基礎的な知識と読解・運用方法を学び、自ら研究テーマを見つけ立論し卒業論文を完成させる力をつけた後、博士前期課程へ進学することになります。前期課程の院生に求められるのは、自力で課題を見つけ、解決の見通しを立て、適切な方法を用い、検証可能な客観性を持った結論を導き出す研究論文を執筆することです。修士論文が成って博士後期課程に進学した後は、より発展的で独創的な研究が求められます。その研究活動を支えるスタッフが、以下の6人です。

丸尾 誠 教授

博士(文学) 現代中国語文法

- ・『現代中国語の空間移動表現に関する研究』(白帝社、2005)
- ・『現代中国語方向補語の研究』(白帝社、2014)

勝川 裕子 准教授

博士(文学) 現代中国語文法

- ・『現代中国語における「領属」の諸相』(白帝社、2013)
- ・『可能の助動詞“会”の表現機能と「上手い」への派生について』『中国語教育』9 (2011)

田村 加代子 准教授

修士(文学) 中国古典語学

- ・『「説文解字」「許慎段注」訳注の試み(四)』『饗登』25 (2017)
- ・レイ・チョウ『女性と中国のモダンティ』(訳、みすず書房、2003)

陳 朝輝 准教授

博士(文学) 中国近現代文学、日中比較文学

- ・『文学的革命:論魯迅と日本無産階級文学』(光明日報出版社、2016)
- ・『芥川龍之介(支那趣味)の変容と解消』『越境する中国文学—新たな冒険を求めて』(2018)

笠井 直美 准教授

修士(文学) 中国古典文学

- ・『北京大學圖書館藏「忠義水滸全傳」—「萬曆袁無涯原刊」情報の一人歩き』『名古屋大學中国語学文學論集』21 (2009)
- ・『吳郡寶翰樓初探』『古今論衡』27 (2015)

佐野 誠子 准教授

博士(文学) 中国古典文学

- ・『「観世音応驗記」の構成と観世音応驗譚の南北』『中国古典小説研究』21 (2018)
- ・『中国古典小説選2 六朝志怪』(明治書院、2006)

博士論文

現代中国語における受身表現に関する研究—非典型的な事例を中心に—/『左氏會箋』の基礎的研究/中国語の概念メタファーに関する研究—認知メタファー理論の立場から—/現代中国語の程度表現に関する研究/森春濤の香奩體詩受容と漢詩創作:韓偓の香奩詩から森春濤の艶體詩へ/現代中国語の方位詞“上”と“里”に関する研究/中国演劇の流通と展開:物語の変容と、周辺メディアの役割について/唐代小説「板橋三娘子」考:東西交響変遷の伝播と変遷

修士論文

現代中国語の程度表現に用いられる“了”の用法について/現代中国語の結果構文における主語と目的語に関する考察—その成立条件と意味役割について—/現代中国語における「形容詞+補語」構造について/五山禪僧における王勃「滕王閣序」の受容について/現代中国語における“让”構文の意味特徴/中国語の定語表現における形容詞の意味特徴—数量詞との位置関係の観点から—/中国語における“NP1+A+V+NP2”形式の成立条件とその構文の特徴について/『三体詩幻雲抄』にみえる五山僧の自然観/現代汉语语气词的时态表达功能研究—以“的”“了”“呢”“来着”为中心

指導可能領域

現代中国語学/中国古典語学/中国語教育/日中対照言語学/中国近現代文学/中国古典文学(文言/白話)/日中比較文学/日本漢文学





日本語教育学分野で目指すのは「研究も教育もできる日本語教育人材の育成」です。研究能力はもちろんのこと日本語教授能力を高めることも重視しています。その一つが、日本語教育実習です。模擬授業の実践、外部日本語教育機関での実践を通し、教師としての課題や問題意識を明確にします。本分野に所属する学生の修士論文・博士論文の研究については、ハイレベルな学術誌に掲載されることを目標として、全教員が各専門分野の見地から厳密かつ熱意ある指導を行っています。日々の指導の他に、毎月一回分野研究会を行い、分野全体で修士論文や博士論文の執筆をサポートする体制をとっています。本分野の分野研究会は学生主体で運営されており、教員だけでなく学生同士が自由に活発な議論を行って

る点に特徴があります。この他、日本語教育学分野主催で様々な講演会やセミナー、シンポジウムを行ったり、国内外で活躍中の修了生や研究者と密接な連携を保ち、日本語・日本語教育に関するネットワークを広げたりするなど、活発な研究活動を行っています。

修了生の多くは日本、韓国、中国、台湾、ベトナム、タイ、マレーシア、トルコなど国内外の日本語教育・研究機関に勤務しています。大学のほか中学校や高校で日本語教育の知識を生かして働いている人もいます。また、留学生の場合、高度な日本語運用能力を生かして、日本企業や外国企業の日本担当部門で活躍している人もいます。

玉岡 賀津雄 教授

Ph.D. 心理言語学、言語習得、言語の認知処理、コーパス研究

- ・“www.kanjidatabase.com: A New Interactive Online Database for Psychological and Linguistic Research on Japanese Kanji and Their Compound Words,” *Psychological Research* 81 (共著、2017)
- ・“Individual Mentalizing Ability Boosts Flexibility toward a Linguistic Marker of Social Distance: An ERP Investigation,” *Journal of Neurolinguistics* (共著、in press)

杉村 泰 教授

博士(学術) 現代日本語学(教育文法)、日本語教育

- ・「現代日本語における蓋然性を表すモダリティ副詞の研究」(ひつじ書房、2009)
- ・「中国語話者のための日本語教育文法を求めて」(共著、日中言語文化出版社、2017)

林 誠 准教授

Ph.D. 会話分析・相互行為言語学

- ・「会話分析入門」(共著、勁草書房、2017)
- ・*Conversational Repair and Human Understanding* (共編、Cambridge University Press、2013)

博士論文

能動的及び受動的意味を表す日本語の機能動詞結合の研究／現代日本語における程度副詞の研究／Ambiguity in the Processing of Japanese, Korean and Mandarin Chinese Relative Clauses／中国語を母語とする日本語学習者による同形同義語の認知処理／現代日本語における気象現象の概念化－概念メタファー理論によるアプローチ－／「カラ」「デ」「ニ」の標識を持つ統語構造および理解／日本語会話における共感の仕組み－自慢・悩み・不満・愚痴・自己卑下の諸相－／台湾人日本語学習者による日本語のアスペクト形式「テイル」の習得について／言語行為の選択と判断に影響する諸要因の階層性／中国人日本語学習者による周辺語彙の理解

修士論文

感情形容詞と感情動詞の使役表現を中心に／漢語サ変動詞の自他と使役に関する研究／ヴォイスの誤用分析と日本語教育への応用－中国語を母語とする日本語学習者を中心に－／カト節を持つ引用構文の記述的研究－間接疑問構文との関係を含めて－／幼児期における活動・到達・達成動詞の過去と未来の時間概念の習得／日本語形容詞述語文の人称制限－日本語母語話者による容認性判断からの検討－／「ほめる」「おだてる」「もちあげる」の類義語分析／驚きを表す慣用表現の意味分析／「～のところ」の認知言語学的意味分析：場所・時間・現実・中立的用法／トルコ語母語話者による日本語名詞修飾節の習得－文結合タスクを用いて－

指導可能領域

日本語教授法／外国語教授法／日本語習得研究／談話分析・会話分析／言語の認知処理／テスト理論と因果関係分析／現代日本語の意味・文法研究／日本語の誤用分析／日本語と他言語の対照研究／日本語の語彙・文法教育／コーパス研究／心理言語学(2018年4月1日現在)





第二言語や外国語を習得する過程は、母語を習得する過程とどのように異なるのでしょうか。学習者はどのようにして第二言語を視覚的・聴覚的に処理しているのでしょうか。第二言語による産出と理解の発達を促進または抑制する要因はどこにあるのでしょうか。英語教育学分野では、外国語学習にまつわるこうした様々な疑問に対する答えを、様々なアプローチから研究して導き出します。スタッフの研究領域の視点からは、形態論とバイリンガリズムをコアとする心理言語学、マルチメディアやインターネット対応の教材の開発を含み、実験の様々なノウハウ取得にもつながる教育学・言語教育学、種々の外国語教授法および外国語教育の中で依然大

な比重を占める語彙と読解に関する問題と、一層重要性を増している音声面、さらに言語能力の測定にも注目する第二言語習得論、テキストの批判的言説分析・談話分析を意識した言語学、その他、脳科学や数量的分析手法の英語教育学領域への応用と学際的研究等と多岐にわたっています。関連諸科学の知見、成果、方法論等を総合的、有機的に学ぶこと、ならびに、自らの問題意識に端を発する研究を実践することを通じて、英語教育学の高度な専門知識と研究力を有する研究者・教育実践者を育成することに力を入れています。また、中学・高校の外国語（英語）の専修免許の取得につながる授業も多く開講しています。

木下 徹 教授

Ph.D. 言語評価論、応用言語学

- ・「視線と対象:ロボットへの学習者の視線行動の特徴を中心に」『日本教育工学会研究報告集』(共著,2008)
- ・「二言語における語彙カテゴリー判断課題のプライミング効果」『日本教育工学会研究報告書』(共著,2011)

尾関 修治 教授

修士(文学) 英語eラーニング

- ・「eラーニングからコミュニケーションへ」『英語教育』57(1) (2009)
- ・「英語授業でのLMSの利用手法とその効果」『中部大学教育研究』8 (2009)

エドワード・ヘイグ 教授

Ph.D. 批判的言説分析

- ・『科学英語の書き方とプレゼンテーション』(共著,コロナ社,2004)
- ・『統 科学英語の書き方とプレゼンテーション スライド・スピーチ・メールの実際』(共著,コロナ社,2009)

杉浦 正利 教授

修士(教育学) 第二言語習得論

- ・“Collocational Knowledge of L2 Learners of English: A Case Study of Japanese Learners,” *English Corpus Linguistics in Japan* (Rodopi, 2002)
- ・“Applicability of Processability Theory to Japanese Adolescent EFL Learners: A Case Study of Early L2 Syntactic and Morphological Development,” *System* 52 (2015)

博士論文

The Early Grammatical Development in Young Japanese Learners of English as a Foreign Language: A Cross-Sectional Study Utilizing Processability Theory / The relationships between sound sensitivity, English prosody processing, and English listening comprehension. / Japanese EFL Learners' Acquisition of Number Feature Representation in English / 外国語の文法知識における一元性の検証:文法性判断の正答率・反応時間・主観的変数を対象に / オバマ大統領のプラハ演説に関する社説の批判的ディスコース分析— 朝日新聞、読売新聞、毎日新聞を中心に—

修士論文

Effects of Negotiation of Meaning on Lexical Acquisition in Computer-Mediated Communication / Contribution of pronunciation features to intelligibility and comprehensibility in non-native interaction: A case of Japanese and Chinese learners of English. / 日中英語学習者における接続語句使用法の比較研究:習熟度・トピック・母語・学習経験による影響を中心に / 語彙の反復提示は読解を通じた学習を促進するか / 八百長疑惑によるアギーレ元サッカー日本代表監督の契約解除に関する社説分析

院生による勉強会「基礎研」の紹介

外国語教育メディア学会(LET)中部支部外国語教育基礎研究会(通称:基礎研)では、若手の研究者や大学院生が中心となり、外国語教育に関する概説書の輪読や統計手法について学ぶ週例会を学内で開催しています。左上の写真は、基礎研の風景です。

山下 淳子 教授

Ph.D. 第二言語習得研究

- ・“Word Frequency, Collocational Frequency, L1 Congruency, and Proficiency in L2 Collocational Processing: What Accounts for L2 Performance?” *Studies in Second Language Acquisition* (2017)
- ・“Comprehension and Knowledge Components that Predict L2 Reading: A Latent-Trait Approach,” *Applied Linguistics* 38(1) (2017)

村尾 玲美 准教授

博士(学術) 第二言語習得論

- ・“The Effects of Syllable Sequence Frequency on EFL Learners' Speech Recognition,” *Annual Review of English Language Education in Japan* 28 (2017)
- ・“The use of prosody in semantic and syntactic disambiguation: Comparison between Japanese and Chinese Speakers' Sentence Production in English,” *PAAL Journal* 20(1) (2016)

三輪 晃司 准教授

Ph.D. 心理言語学、バイリンガリズム、形態論

- ・“Reading English with Japanese in Mind: Effects of Frequency, Phonology, and Meaning in Different-Script Bilinguals,” *Bilingualism: Language and Cognition* 17(3) (2014)
- ・“Visual Trimorphemic Compound Recognition in a Morphographic Script,” *Language, Cognition and Neuroscience* 32(1) (2017)





応用日本語学分野は、日本語学、日本語教育方法論、日本文化論のいずれかの専門的な研究を行うとともに、日本語教育へ応用する力、日本語教育を実践する力を身に付けることを目指します。

日本語学の領域では、特に文法論、意味論、語彙論を学ぶことができます。文法論では、記述文法に加え、日本語教育のための文法研究も重要なテーマです。意味論は、認知言語学の枠組みでの様々な意味研究が中心です。語彙論は、文法と意味の観点を重視し、現代日本語の研究に加えて、漢語語彙等の通時的な研究も学ぶことができます。

【日本語学】

李 澤熊 准教授

文学博士 現代日本語学、日韓対照

- ・「韓国人日本語学習者のための日韓対照言語研究－多義語分析を中心に」『日本認知言語学会論文集』14(2014)
- ・「皆／すべて／全部の意味分析－統合的スキーマと離散的スキーマの観点から」『日本認知言語学会論文集』10(2010)

永澤 済 准教授

博士(文学) 言語学、日本語史、語彙・文法

- ・「判決口語化の模索－伝統と革新の間で」『東京大学言語学論集』38(2017)
- ・「漢語動詞の自他体系の近代から現代への変化」『日本語の研究』3(4)(2007)

【日本語教育方法論】

衣川 隆生 教授

学術修士 日本語教育方法

- ・「専門講義理解支援のための説明活動－対話を通じた学習者の理解の変容－」『日本語教育方法研究会会誌』23(2)(共著、2017)
- ・「対話と説明によるテキスト解釈の変容過程の分析－中上級日本語学習者を対象とした読解授業において－」『名古屋大学日本語・日本文化論集』23(共著、2016)

石崎 俊子 准教授

教育学修士 日本語CALL教材開発研究

- ・「反転授業を意識した日本語CALL教材の開発－教師トレーニングの一環として」『Computer Assisted Systems for Teaching & Learning Japanese CASTEL/J' 2017』(2017)
- ・「文化理解を目的としたコンピュータ教材の活用」『Computer Assisted Systems for Teaching & Learning Japanese CASTEL/J' 2015』(2015)

博士論文

文末における「真偽モダリティ」形成の意味／日本語の「共感覚的比喩(表現)」に関する記述的研究／身体部位詞を構成要素に持つ日本語慣用表現の認知言語学的研究／日本語存在・所有表現の認知言語学的研究／数量が大であることを表す不特定数量詞の意味分析／日本語とウズベキスタンを対象とした異文化間レトリック研究－論証文における文章と文章観の多様性－／文脈アプローチによる言語学習ビロフの形成・変容過程の質的研究／Can-do statementsを用いた自己評価における質問項目要因と個人差要因の影響－韓国・中国JFL学習者の「聞く」技能を対象として－／読みの目標が読解過程と理解に与える影響－読解指導の応用に向けて－／日本留学試験「記述問題」のトピックに関する研究

修士論文

「忍耐」を表す動詞の意味分析／未遂を表す後項動詞の意味分析－～そこなう、～そびれる、～のがすを中心に－／多義語としての形容詞「深い」「浅い」の意味分析／水に囲まれる事象を表す動詞の意味拡張／日本語文末表現「ものか」の意味の分析／言語学習ストラテジーの使用に関わる要因の分析－タイ人学部留学生を対象に－／非漢字圏中学生を対象とする協働学習の要素をとり入れた語彙学習／日本語の授業におけるスライドの提示方法の検討－初級文法項目「変化」「自他動詞」を対象として－／海外の高等教育機関で学ぶ日本語学習者の学習の振り返りに対する意識の変容プロセスとその要因／情報提供場面の日本語母語話者のコミュニケーション方略の分析－非母語話者との接触経験の差に焦点を当てて

教員からのメッセージ

私たちは、言語、教育、文化、工学など多岐にわたる教員の専門を結集し、大学院教育にあたっています。この幅の広さは、専門性の求められる大学院においてこそ貴重であり、多様な視点での教育を可能にしています。

日本語教育方法論とは、日本語の教育の方法を構築していくための理論的背景となる研究を行うとともに、それらの研究成果を応用し日本語教育の方法を開発、実施し、その効果と課題を明らかにする分野です。また、ICT(情報コミュニケーション技術)を利用した日本語教育方法の開発、談話分析やストラテジー研究の成果を応用した学習環境の提案を行うとともに、教室における相互行動分析なども行っています。

日本文化論の領域では、主に文化人類学・民俗学の方法論による日本文化研究の知識を身に付け、グローバルな視点(特に東アジアの近隣諸国との比較)から日本文化を相対化する複眼的な思考力を養い、そこから得られた知見を日本語教育に応用する力を身につけることを目指します。

佐藤 弘毅 准教授

博士(工学) 教育工学、日本語教育

- ・「電子黒板・デジタル教材活用事例集」(共著、教育開発研究所、2011)
- ・「初級漢字授業における電子黒板の活用」『名古屋大学日本語・日本文化論集』17(2011)

俵山 雄司 准教授

博士(言語学) 談話分析、言語運用に対する評価

- ・「現場に役立つ日本語教育研究3 わかりやすく書ける作文シラバス」(共著、くろしお出版、2017)
- ・「『評価』を持って街に出よう」(共著、くろしお出版、2016)

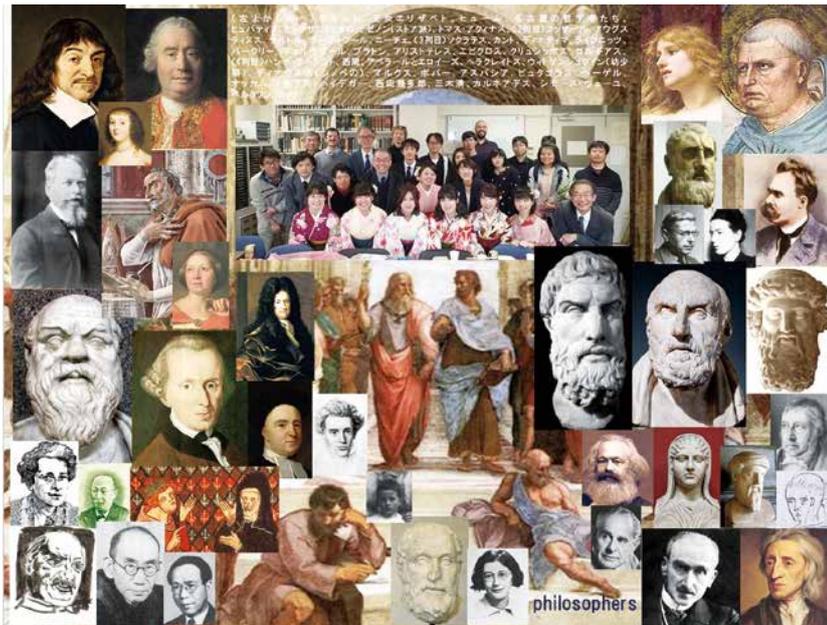
【日本文化論】

浮葉 正親 教授

文学修士 文化人類学、民俗学

- ・「歴史のなかの異性装」(共著、勉誠出版、2017)
- ・「異人論とは何か ストレンジャーの時代を生きる」(共著、ミネルヴァ書房、2015)





哲学は、広範な問題意識と緻密な思考力を要求する学問であるため、みなさんのなかには哲学にある種の「近寄りたさ」を感じておられる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、哲学は、この世界でさまざまな疑問や問題に直面した私たち個人々が、その究極的な解決を自分自身の生き方に照らし合わせてどこまでも追究していく知的営為であり、その意味で、私たちにとってこれほど「身近な」学問はないともいえるのです。

当研究室では、哲学本来の立場を基本としつつ、原典の厳密な読解を通して本物の思考力を涵養すべく研究・教育活動を行っています。学生のみなさんは、古代から現代にいたる哲学の歴史の中から自由に題材を選

んで学ぶことができますが、それゆえに、英、独、仏語はもとより、古典ギリシア語やラテン語の素養もある程度必要になります。そしてなにより、積極的に教員からの助言を求めて自主的に研究していく姿勢が求められます。

学生の数は、現在学部生22名(2年生3名、3年生8名、4年生11名)、大学院生15名(博士前期課程9名、後期課程6名)です。演習では、納得いくまで質問、討論することができます。卒論では、プラトン、アウグスティヌス、デカルト、ヒューム、ロック、カント、ミル、フッサール、ハイデガー、デリダ、フーコー、ラカン、西田幾多郎など、古今東西の哲学者だけでなく、倫理学、認識論、宗教等の種々の現代的なテーマも扱うことができます。

金山 弥平 教授

博士(文学) 古代ギリシア哲学および中世哲学

- ・“The Methodology of the Second Voyage and the Proof of the Soul’s Indestructibility in Plato’s *Phaedo*,” *Oxford Studies in Ancient Philosophy* 18 (2000)
- ・“Plato’s Wax Tablet,” *Soul and Mind in Greek Thought. Psychological Issues in Plato and Aristotle* (Springer, 2018)

宮原 勇 教授

博士(文学) 近現代哲学、現象学

- ・「ハイデガーの根本的視座」『ハイデガー「存在と時間」を学ぶ人のために』(世界思想社、2012)
- ・「記号と概念——現象学的認知主義からのソシュールの『一般言語学講義』の考察」『21世紀のソシュール』(水声社、2018)

博士論文

プラトン知識論の研究—「メノン」の想起説に関する考察／デカルト的「人間」像—心身の区別と合一の扶間で／フッサール言語論の可能性—直観と言語の関係から—／持続への回帰—ベルクソン「持続」概念の探究—ウイゲンシュタインの後期哲学についての研究—確実性について—／前期ハイデガーにおける生の哲学／ジョン・ロールズの正義論／The topology of “true nothingness”: A genealogy of Kitarō Nishida’s conception of “basho”／構造主義言語学における「音素」概念の存在論的考察／メタファーに関する哲学的・認知言語学的考察

修士論文

プラトンにおける魂の勇気 (andreia) について／プラトン「饗宴」におけるエロスと美のイデア／プラトン哲学における文字と実在の構造／ヒュームの道徳論における一般的観念の問題／ベルクソンにおける「自我」と意識の重層構造／On Wittgenstein’s Philosophy of Mathematics and his Philosophical Approach／メルロ＝ポンティにおける上・下という方向性について—カミュの『転落』を手がかりに—

鈴木 真 准教授

Ph.D. 道徳哲学、英米哲学史

- ・“Is Act Utilitarianism Self-Effacing? The Rising Need of Utilitarian Awareness in Indirect Strategies,” *Tetsugaku* 2 (2018)
- ・“Moral Realism and the Wide-Spread Directed Change in Moral Judgments,” *The Journal of Philosophical Ideas Special Issue* (2017)

布施 哲 准教授

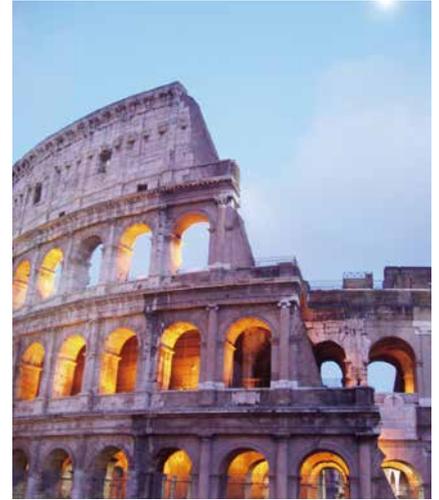
Ph.D. 政治哲学、近現代思想史

- ・「俗物に唾することさえなく — フーコー、シュトラウス、原理主義」『現代思想と政治: 資本主義・精神分析・哲学』(平凡社、2016)
- ・「勝敗の彼岸 — 戦後イギリス「新左翼」の一片片を小さな鏡として」『〈ポスト68年〉と私たち「現代思想と政治」の現在』(平凡社、2017)

学生からのメッセージ

「哲学 (philo-sophia) は何の役に立つの?」という疑問をよく耳にします。しかし、知 (sophia) を愛し求めること (philo) の意義は、何かに役立つという点ではなく、その動的な思考自体にあるのです。みなさんも私たちと一緒に知を愛しませんか?
(博士後期課程1年 野村雄一)





「西洋古典」とは、ギリシア語からラテン語で書かれ古代から伝承された作品群のことです。そこには歴史記述や哲学的議論のほか、叙事詩、悲劇・喜劇、抒情詩、諷刺詩、弁論、小説などの多種多様な文学的創造がありました。それらの文学的創造の中でも、最重要な要素は神話です。自由な発想で語られた彼らの神話は、今でも色褪せない骨太の古典文学作品を無数に生み出しました。また、ギリシア・ローマ神話が今日でも世界中の人々の想像力の糧となっていることは周知の通りです。

ギリシア・ローマの古典を、さまざまな角度から研究する学問が西洋古典学です。人文学において重要な位置を占めますが、これを専門的に学べる大学は日本に僅かしかなく、そのひとつが名古屋大学です。名古屋

大学の西洋古典学の特長は、神話を題材とする文学に重点を置き、倫理学、宗教学、社会史、人類学の幅広い関心をもって研究と教育を進めているところにあります。

当研究室では、西洋古典と神話についての講義をはじめとして、古典文学研究にアプローチするための演習のほか、実際にテキストを原典で読むために必要となる、ギリシア・ラテン語の様々なレベルの授業を開講しています。古典テキストを扱うための文献学的方法と知識、注釈や研究書の使い方なども教授します。授業における討論と個人指導を重視し、各自が自由に選択したテーマを研究発表する機会を多く設けています。

吉武 純夫 准教授

文学博士 古代ギリシア人の死生観、ギリシア・ローマの神話と文学、ギリシア・ラテン語学

- ・『ギリシア悲劇と「美しい死」』(名古屋大学出版会、2018)
- ・“*Aretē* and the Achievements of the War Dead: The Logic of Praise in the Athenian Funeral Oration,” *War, Democracy and Culture in Classical Athens* (Cambridge UP, 2010)

博士論文

ブルタスコス『対比列伝』と初期ローマ人／セネカ悲劇研究 古代ローマにおけるドラマトゥルギー

修士論文

ソボクレスにおけるエレクトラ像／テオクリトスの『エイデュリア』における社会的現実と人物像／ルクレティウスにおける幸福と歴史観／ブルデンティウス『プシュコマキア』について／ワッローの『ラテン語考』における *Natura*／メデアの子殺し—エウリピデスの悲劇『メデア』の意味するもの／キケロー『弁論家について』における執筆目的に関する考察／『イリアス』における予言の役割／オウィディウスの諸詩篇における恋と狂気の関係について

教員からのメッセージ

叙事詩や悲劇の力強さやギリシア・ローマ神話の奥深さを、翻訳でいいからじっくり味わってみてください。原語で読んでみたいパッセージがいくつも現れるでしょう。それが西洋古典学を学ぶ最大の原動力となります。





中国の思惟、または中国人的な思惟を研究するのが、本研究室である。

中国大陸では、古来、さまざまな思惟が展開されてきた。人間論と、それに裏付けられた政治思想、特色ある宇宙論、道教や中国仏教などの宗教、自然科学、言語学…等々。そして、それらは、中国のほとんどあらゆる種類の書物、および文化の諸事象や事物の内に貫徹し、われわれの研究対象になるのだ。

また、それらに影響された朝鮮半島や日本の思想宗教、とりわけ「漢学」なども、研究対象に入る。だから、中国哲学研究の対象は、きわめて広く、深く、多様だ。その研究は安易な道のりではないが、あえてそれに挑戦する意欲の持主を、われわれは歓迎する。

中国哲学の研究方法は、近年、現地調査やコンピューター利用等の方法も模索されているが、文献研究を避けて通ることはできない。われわれの研究室でも、演習形式の授業による文献の精読にもっとも重点をおいている。それは、精確な語学的な理解をふまえた上での哲学的な解明や思想史的な把握を達せんとするからだ。

古人の言に「一隅をあげて、三隅を返す」とあるが、そのような意欲的な態度でのぞめば、密度の高い議論を通じた勉強が可能である。そのような場が、本研究室である。

吉田 純 教授

博士(文学) 清朝考証学、儒学

・『清朝考証学の群像』(創文社、2006)

・ベンジャミン・A.エルマン『哲学から文献学へ』(共訳、知泉書館、2014)

博士論文

秦漢孝経學史的研究／二十四孝の研究／緯書研究／清朝考証学和它的時代／無の心身論／牛頭山初祖法融禪師研究／初期道教地域性相関問題研究／『喫茶養生記』に見える宗教思想—道教との関わりを中心に—／善導教義における信の確立

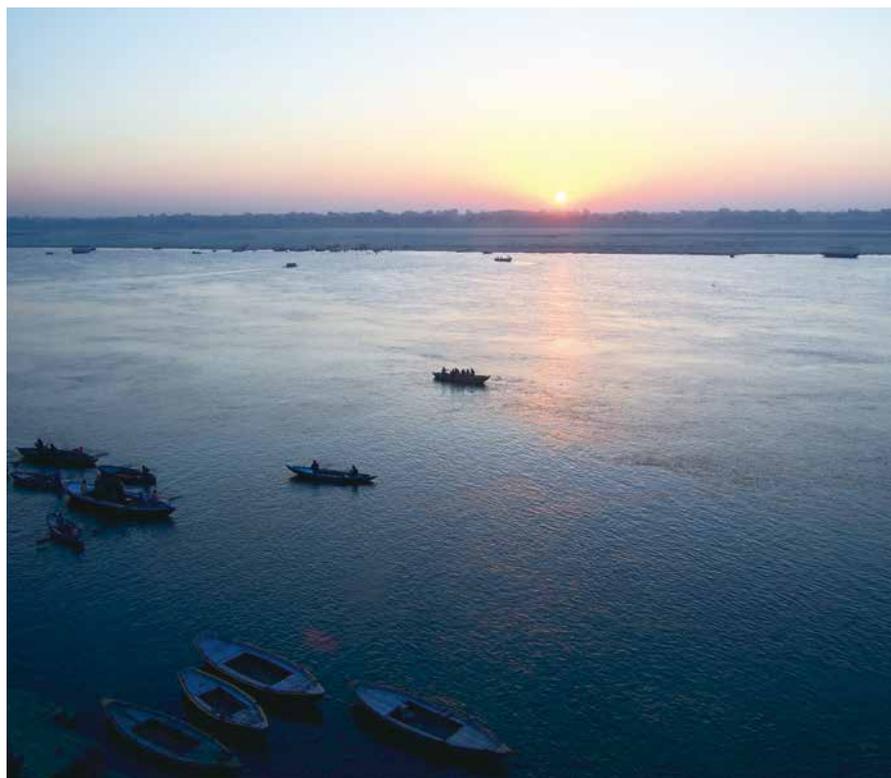
修士論文

『喫茶養生記』における中国思想の受容／『山海経』に見える風雨の神／『論語古訓外伝』に見える太宰春臺の聖人観／『墨子』の政治及び文化の思想／「楽」の扱いからみる董仲舒の思想／陳元賛『老子経通考』の研究／日本に伝わる『孝経述議』／朱熹の『論語』解釈とその変遷／林希逸の『老子』解釈について／中国の佛教における牧牛喩の傳統—漢譯佛典の所説を中心に— など

講義題目

孔子研究／清朝考証学の群像／汪中『述学』精読／『朱子語類』精読／閻若璩『尚書古文疏証』精読など





インドを中心とした南アジアの文化現象が研究対象です。現象の背後にある思想の多くが「サンスクリット」と呼ばれる古典語で伝えられてきていますが、決して「死語」ではありません。インド思想はアジア文化の根底の一つであり、日本にも仏教を介して大きな影響を与えてきたので、インド思想研究の中では仏教研究も重要な柱です。この研究には、他の古典語が必要となる場合もあります。

研究対象となるのは必ずしも哲学文献だけではありません。インドの思想は、哲学・宗教・歴史・文学という領域に分類することが容易ではなく、しばしば領域を「越境」します。これまでインド文学・宗教儀礼・美術を研究した卒業生も数多くいます。

学生には海外の大学へ留学することも推奨しています。名古屋大学はインドのブネー市にあるサヴィトリ・バイー・プレー・ブネー大学と学術交流協定を結んでおり、これまでも多くの学生が留学してきました。海外の研究者による講演などにも力を入れています。分野・専門で発行する *Nagoya Studies in Indian Culture and Buddhism: Sambhāṣā* は、英語の論文・書評のみを掲載する国内初のインド学関係の学術誌であり、海外でも高い評価を受けています。

国際的な雰囲気の中で、インドを手懸かりとして研究することを通して、人間の理解を深めたいと願っています。

和田 壽弘 教授

Ph.D., 博士(文学) インド論理学、インド言語哲学

- ・*Invariable Concomitance in Navya-Nyāya* (Sri Satguru Publications, 1990)
- ・*The Analytical Method of Navya-Nyāya* (Egbert Forsten Publishing, 2007)

博士論文

Language and Interpretation in Mahāyāna Buddhism Tradition / サンスクリット詩学における文体理論 / 古典インド実在論研究 / 説一切有部思想の展開 / 初期ヴェーダーンタ学派不二一元論の研究 / 古典ニヤーヤ学派における推理論の研究 / Emptiness in the *Cūlasūññatasūtra* / 古代インドにおける女性仏教修行者の生活 / 瑜伽行派の思想展開 / タイに伝わるパーリ語蔵外伝典の研究

岩崎 陽一 准教授

博士(文学) インド言語哲学、形而上学、文法学

- ・「言葉の「正しさ」をめぐる——インド新論理学派による言語情報の哲学——」(山喜房仏書林, 2017)
- ・「詩的意味の美的知覚——新ニヤーヤ学派ジャガディーシャの暗示理論批判」『印度學佛教學研究』66(2) (2018)

修士論文

シャンカラの『ブラフマ・スートラ註』における *Īśvara* の概念 / 「普賢行願讃」に対する「聖普賢行願大王会疏」における「対治門」の研究 / ハリハドラ・スーリ著『ニヤーヤ・ブラヴェーシャカ註』の和訳研究 / 『マハーバーシュヤ』「パスパシャー・アーフニカ(第一日課)」研究 / ヴェーダーンタ学派の教義綱要書『アパロクシャ・アヌプーティ』の研究 / 『中論』第十章に対する諸註釈の比較研究 / 『シャーラダー・ティラカ・タントラ』におけるシンボリズムとヨーガ / 『根本説一切有部律』「破僧事」における降魔成道説 / *Abhidharmakośabhāṣya* と註釈書における四念処の研究 / インド文法学派における願望法語尾の意味

講義題目

『バガヴァッド・ギーター』研究 / インド言語哲学の体系 / 『中論』研究 / 『華嚴經』研究 / 『ヨーガ・スートラ』研究 / インド修辞学研究 / インドの古代法典 / パーリ語文獻講読 / チベット語文法





「日本史」という言葉を聞いたとき、何を想像しますか?豊臣秀吉、幕末の動乱、源平合戦や卑弥呼など、多くの人は中学校や高校で勉強した「日本史」を思い出すのではないのでしょうか。では、その勉強の際に「なぜ」と思ったことはありませんか?「なぜ豊臣秀吉は天下統一を成し遂げることが出来たのだろうか」、など。「日本史学」は日本の歴史の中に隠れている「なぜ」を見つけ、掘り下げ、その答えを導き出していく学問です。日本史学研究室では、2・3年生の間は、日本史の中の「なぜ」を考えるために必要な様々な「方法」を学びます。授業のうちの、講義科目では、研究の基礎となる文献・古文書などの史料の読み方や、担当する教員の専門分野に沿って歴史学の考え方を勉強します。また、演習科目では、学生が順番に割り当てられた史料について調べ、調べたことについて報告・ディスカ

ッションを行います。高校までの受身の授業とは全く違い、担当の史料に則して自分の興味・疑問を納得のいくまで調べ、教員や参加学生にぶつけることのできる絶好のチャンスです。また「フィールドワーク」といって、歴史の舞台となった現地を実際に歩くことで、空間的・視覚的に歴史を勉強する授業もあります。4年生になると、今まで積み重ねてきた勉強を土台に、今度は自分の興味・関心に基づいた「なぜ」について考えていくことになります。「卒業論文」は、その「なぜ」という問題に対して自分が考えた「答え」の総まとめです。日本史研究室には、古代・中世・近世・近現代の各時代の教員が揃っています(近現代史専門の教員は2018年秋着任予定)ので、自分が選んだ時代を専門分野とするそれぞれの教員の下で密度の濃い研究をすることができます。

池内 敏 教授

博士(文学) 日本近世史、近世日朝関係史

- ・『絶海の碩学』(名古屋大学出版会、2017)
- ・『日本人の朝鮮観はいかにして形成されたか』(講談社、2017)

古尾谷 知浩 教授

博士(文学) 日本古代史

- ・『律令国家と天皇家産機構』(塙書房、2006)
- ・『文献史料・物質資料と古代史研究』(塙書房、2010)

斎藤 夏来 教授

博士(歴史学) 日本中世史

- ・『禅宗官寺制度の研究』(吉川弘文館、2003)
- ・『五山僧がつなく列島史—足利政権期の宗教と政治』(名古屋大学出版会、2018)

博士論文

通信使・燕行使と近世日本／近世日朝関係と対馬藩一日朝接触の様相を中心に／長崎唐通事集団の研究／大正・昭和戦前期の日本における航空思想の普及／江戸幕府の歴史編纂事業に関する研究—創業史の分析を中心に—／近代日本の形成と電力業—名古屋地域における近代的電力業の成立—

修士論文

古代日本の奏者宣—男官と女官を比較して—／近代日本海軍の宣伝活動と観艦式—一九三〇・三六年神戸を事例に—／賑給と勸農政策／道之島における海運と漂流民送還制度／西南戦争における死傷者への対応

教員からのメッセージ

2018年度の日本史学研究室在籍学生数は、学部2年生14人、3年生14人、4年生19人、博士課程前期課程3人、同後期課程12人、ほか若干名です。秋の研究室旅行では、福井県(2016年度)、山梨県(2017年度)などにかけています。





東洋史学研究室では、東は朝鮮半島から西はアナトリアまで、広くアジア諸地域の歴史を研究の対象としています。

特に中国・東南アジアに関しては、それぞれ専門の教員がおり、最新の研究動向に触れつつ専門的な勉強をすることが可能ですが、これらに限らず、広くアジアの諸地域の歴史に関心を持つことが望まれています。

卒業論文・修士論文の研究テーマも、中国は古代から現代の共産党時代までさまざまであり、また中国以外ではタイ近代史、ベトナム近代史、インド近代史、西アジア中世史と、非常に広い分野にわたっています。学生が自分でテーマを見つけ、研究を進めていくことが奨励されているのです。

授業は、中国史・東南アジア史の演習、すなわち漢文史料・英文資料・タイ語史料などを読み、討論することに多くの時間を割いています。空理空論ではなく、史料的事実にもとづいて歴史を構成する歴史学にとって、史料読解と分析はその根源とも言うべきものです。学生の皆さんはこうした演習を通じて史料の読みかたを学び、さらに史料から引きだした事実にもとづき、当時の社会や人間のありかたについて討論していくことになります。



もちろんこうした外国語史料を読み解いていく、というのは簡単なことではありませんが、最初からすらすら読める、などという人はいたためしがありません。本当の初歩から、一步一步進んでいきますので、心配しなくても大丈夫です。

井上進 教授

文学修士 明清学術史、出版文化史

- ・『中国出版文化史』(名古屋大学出版会、2002)
- ・『明清学術変遷史』(平凡社、2011)

加藤久美子 教授

博士(歴史学) 東南アジア史、タイ族地域の歴史

- ・『盆地世界の国家論——雲南、シブソンパンナーのタイ族史』(京都大学学術出版会、2000)
- ・“Qing China's View of Its Border and Territory in Southernmost Yunnan in the 1830s: Analyses of Historical Sources Concerning Sipsongpanna,” *Journal of the School of Letters, Nagoya University* 11 (2015)

博士論文

清代長江中上流域の塩政における官僚の運用／“真詩”論的形成——理学時代の詩論発展過程(中文)／鄂尔泰的西南統治—其民族观念及对策(中文)／ラタナコーシン朝前期シャムの政治構造—政權構成と文書処理システムを中心として—近代中国における政治運動の成立／秦統一原因再探討——从春秋战国时期政治制度的角度(中文)／漢代郡県制統治体制の地域的研究／元明期における旌表の研究

修士論文

雲南における普洱府の形成と発展／清代における雲南の義塾について／元代雲南出鎮宗王の意義／呼称の変遷から見た媽祖(天后)信仰／雲貴総督李侍堯案から見た乾隆期督撫の腐敗問題／室利佛逝と末羅遊の再検討／ウズベキスタンへのジャガイモの伝播と農村社会の変貌／南朝後期における「蛮」について／春秋期氏族の内部構造と継承制度／タイ族慣習法によるタイ族社会の分析—『孟連タイ族封建慣習法』—

林謙一郎 准教授

歴史学博士 中国西南民族史、雲南民族形成史

- ・『有关南诏、大理政区建置的几个问题』『方国瑜诞生一百一十周年纪念文集』(雲南大学出版社、2013)
- ・『白族的形成及其对周围民族的影响』『白族族源新探』(雲南人民出版社、2016)

土屋洋 准教授

博士(歴史学) 中国近代史、台湾史

- ・「清末の修身教科書と日本」『史林』88(3) (2005)
- ・「日治時期学校教育中的「呉鳳」—台湾、日本及朝鮮—」『嘉義研究』1 (2010)

教員からのメッセージ

近年は中国からの留学生が多く、授業中のやりとりにも中国語がまじることが少なくありません。中国語の文献を読むという時、ネイティブの人とともに学べるというのは、なかなか得がたい機会かもしれません。





西洋史学という学問は歴史学の一分野で、時代的には人類の起源から現在までを、空間的にはヨーロッパとヨーロッパ人が進出していった先の南北アメリカも研究教育の対象に含めています。歴史学は人類が時間のなかでたどってきた道筋を巨細に明らかにすることにより、人間存在の一段と深い理解に寄与することを目指す科学です。科学である限り、厳密な方法と厳密な論理が欠かせません。また事実立脚して、議論を進めていかなければなりません。そこで最も重要なのは、そこから「事実」を汲み出す水源となる史料を読み解く力です。

欧米が対象文化圏ですから、どうしても欧米の言語が史料を読むためにも、研究論文を読むためにも必要です。中世や古代に関心があれば、古代ギリシア語やラテン語などの古典語を勉強しましょう。

わが研究室は5名のスタッフがそれぞれ古代史、中世史、近代史、現代史というふうな時代全体にまたがっていて、構成の面でバランスがとれているばかりでなく、教育・研究においても高い水準にある点では日本の大学でも指折りと自負しています。

歴史を学ぶことのメリットは、生きている現在の世界だけでなく、過ぎ去った時代の言動にも接することによって養われる、人間と社会についての視野の広さにあります。ですから、自分が特に興味をもって勉強したいと考えている時代だけでなく、人類史のトータルな認識を得るために、すべての分野に関して基礎的な知識を身につけるよう努力してください。

周藤 芳幸 教授

博士(文学) 古代ギリシア史

- ・「ナイル世界のヘレニズム——エジプトとギリシアの遭遇」(名古屋大学出版会、2014)
- ・「古代ギリシア——地中海への展開」(京都大学学術出版会、2006)

加納 修 教授

博士(歴史学) 西洋中世史

- ・*Entre texte et histoire. Études d'histoire médiévale offertes au professeur Shoichi Sato* (共編, de Boccard, 2015).
- ・「フランス史研究入門」(共著, 山川出版社, 2011)

和田 光弘 教授

博士(文学) アメリカ近代史

- ・「紫煙と帝国——アメリカ南部タバコ植民地の社会と経済」(名古屋大学出版会、2000)
- ・「記録と記憶のアメリカ——モノが語る近世」(名古屋大学出版会、2016)

北村 陽子 准教授

博士(歴史学) ドイツ近現代史

- ・「核開発時代の遺産」(共著, 昭和堂, 2017)
- ・「歴史のなかの社会国家」(共著, 山川出版社, 2016)

内田 綾子 教授

博士(学術) アメリカ現代史

- ・「アメリカ先住民の現代史——歴史的記憶と文化継承」(名古屋大学出版会、2008)
- ・「Searching for Indigenous Alliances,」 *The Japanese Journal of American Studies* 23 (2012)

博士論文

中世後期フリースルにおける市民/ビザンツ帝国後期における皇帝文書の形式・機能・伝来/子どもと学校の世紀:18世紀フランスの社会文化史/多言語地域におけるナショナリズムと言語・民族問題/第二帝政期ドイツにおける女性の社会活動と家族扶助/七-九世紀フランク国家の王国法廷と「プラキタ」/中世初期トスカナ地方南部の領主支配と社会構造

修士論文

ローマ帝政前期のギリシア諸都市における皇帝崇拝/ヴィクトリア時代後期の絵本/帝国都市リュベックの成立/アメリカ独立戦争における補給の問題について/中世末期の都市と異端/西ドイツの歴史政策と追悼記念碑/ヘレニズム時代のコスにおけるディカスタイ/アイトリア連邦のシュンマキア政策/ニケーア期ビザンツ帝国における皇帝文書と統治実践

講義題目

西洋史基礎演習I-V/西洋古代史研究/西洋中世史研究/西洋近代史研究/西洋現代史研究I-II/西洋古代史基礎演習/西洋中世史基礎演習/西洋近代史基礎演習/西洋現代史基礎演習I-II/西洋古代史発展演習/西洋中世史発展演習/西洋近代史発展演習/西洋現代史発展演習I-II/相關歴史科学特殊研究/博士論文研究 等





インターネットの発達やスマートフォンの普及により、私たちのコミュニケーションにおいては、画像・映像がとて大きな比重を占めるようになりました。様々なSNSでは画像のやり取りだけで意思疎通が図られる場合も見られます。

現代の社会ではイラストや写真や動画などが私たちのまわりを常に取り囲み、数多くのイメージがあふれかえています。それらは知らず知らずのうちに私たちのものの見方や考え方を規定する力を持っています。よく出来た商業広告は、私たちの購買意欲を刺激し、社会に流行現象を生み出します。

美術史学という名称からは、油絵や彫刻など古典的な美術のみを扱っているように思われるかもしれませんが、今や美術史学は、古典的な造形美術の研究のみならず、イメージの力全般を考察する学問へと広がりを見せています。

もちろん美術館で展示されるような古典的な美術品の歴史を実証的に研究するのが基本であることは変わりませんが、現代のイメージあふれる社会とそこに生きる人々に、学問や展覧会がいかなる提言をできるのかをも常に考えています。ですから、これまでの卒論では、古典のみならず、漫画やアニメ、映画などあらゆる視覚表現の問題が取り扱われてきました。さらには、教会建築や万国博覧会など、作品を生みだし、それを発信する場の研究などもあり、すそ野は広がっています。

百聞は一見に如かずという言葉もあります。イメージの不思議な力に気付いた時、美術史学への第一歩はすでに踏み出されているのです。

木俣 元一 教授

Doctrat de 3e cycle (archéologie médiévale), 博士(文学) 西洋美術史

- ・『シャルトル大聖堂のステンドグラス』(中央公論美術出版、2003)
- ・『ゴシックの視覚宇宙』(名古屋大学出版会、2013)

伊藤 大輔 教授

博士(文学) 日本美術史

- ・『天皇の美術史 第二巻 鎌倉・南北朝時代』(吉川弘文館、2017)
- ・『肖像画の時代』(名古屋大学出版会、2011)

博士論文

現図曼荼羅の成立に関する研究：空海請来本系にみる図様改変の問題を中心に／世紀転換期のグスタフ・クリムトにおける身体表現と素描：ウィーン大学、講堂の天井画を中心に／コレージュ作、パルマ、サン・ジョヴァンニ・エヴァンジェリスタ聖堂の天井画及び壁画装飾の再解釈／ブッサンにおける語りと寓意／ヴェネツィア、サン・ジョヴァンニ・クリゾストモ聖堂の装飾プログラム：16世紀初頭に設置された祭壇彫刻・祭壇画を核として／アジア的視点から見た日本の不動明王の受容と展開／八部衆像の成立展開に関する研究／ヴァシリー・カンディンスキー「隠されたコンストラクション」／中国における5～6世紀の仏教彫刻の図像学的研究／アントワーン・ヴァターの雅宴画における彫刻について

修士論文

フランソワ・ブーシェの初期神話画-デルベ邸の装飾を中心に-／ローマ、サンクタ・サンクトルム礼拝堂 祭壇空間のモザイク《キリストの昇天》を中心に／シャルトル大聖堂《ヨセフ伝》のステンドグラス／ジェフ・ウォール《ピクチャー・フォー・ウィミン》におけるパースペクティブ・マールセル・デュシャン《与えられたとせよ》との関係を中心に／グスタフ・クリムト晩年の寓意的絵画について／快慶作三尺阿弥陀像についての研究／北斎筆祭屋台天井画の研究／柴田是真《富士田子浦時絵額》に関する研究 ウィーン万博出品作としての観点から／鈴木其一の画風形成に関する研究-諸派学習の様相について-／寛政年間における長沢芦雪の作品について-愛知県豊橋市正宗寺の作品群を中心に-

教員からのメッセージ

卒論もいわゆる美術作品以外に多様なテーマに取り組んでいます。漫画における時空間の表現-「宝石の国」からみるコマ割りのシステム(漫画)/戦後日本の前衛美術と社会(万博)/レオリオニについての考察(絵本)など。





考古学は、遺跡・遺物の実証的研究に基づいて社会や文化を解明し、人類史を再構成する学問です。遺跡を発掘し、出土した遺物を分析して考古学的事実を正確に把握するとともに、それらを深く掘りさげて新しい歴史像を再構築していきます。対象となる遺跡や遺物を正しく理解するためには、歴史学や文化人類学などの人文科学の知識が必要です。また、文化財科学や自然地理学などの自然科学の知識も必要になります。

近年の考古学の特徴の一つは、今までのように原始・古代ばかりでなく、中世・近世の遺跡も発掘し、さかんに研究をおこなうようになったことです。その結果、近代・現代との連続性がよくわかるようになり、考古資料による歴史も復元できるようになってきています。もう一つの特徴は、自然科学的な分析方法を積極的に導入するようになったことです。それによって新たな成果がもたらされ、おもしろい考古学の世界が急速にひろがっています。

このような状況に対応し、授業では伝統的な考古学を基礎として最新の研究方法や動向もとりいれています。また、考古学専門には講義や演習のほかに実習という授業があります。これは遺跡の発掘技術や遺物の整理技術を習得するための授業で、本専門ではもっとも重要な授業として位置づけています。論文の作成にあたっては、課題を発見し、課題に対する作業仮説をたて、資料をあつめて作業仮説を検証し、結論をみちびくように指導をしています。

山本 直人 教授

博士(文学) 日本考古学(縄文時代)

- ・『縄文時代の植物採集活動』(溪水社、2002)
- ・『縄文時代の生業と社会』(同成社、2013)

博士論文

メソアメリカ古典期社会の形成過程に関する考古学的研究／東アジア先史時代の植物質編物の研究／東海地方における縄文・弥生時代の貝塚／縄文時代における身体装飾の研究／縄文時代における精神文化遺物の研究／メソアメリカ先古典期文化の研究／中世瀬戸窯の研究／韓半島における原始・古代の漁撈文化／東アジアにおける窯業技術の発展史と技術交流史の研究

梶原 義実 准教授

博士(文学) 日本考古学(歴史考古学)

- ・『国分寺瓦の研究』(名古屋大学出版会、2010)
- ・『古代地方寺院の造営と景観』(吉川弘文館、2017)

修士論文

古代日本における陶硯の使用実態研究／地方における終末期古墳の墓域と周辺環境／東日本における条里型地割の成立と展開／古代伊勢地域における仏教の受容と地域の動向／古典期前期メソアメリカ南太平洋岸地域におけるテオティワカン様式土器の受容／矢作川流域における4-9世紀の集落／平安時代後期の濃尾地域における灰釉陶器生産／日本列島における水田稲作農耕伝播後の貯蔵堅果類／16-17世紀の信楽焼・伊賀焼生産／弥生時代の北陸地方における玉作りと社会

教員からのメッセージ

教員は日本考古学を専門としていますが、考古学という学問は日本のみ限定されるものではありません。教員が日本考古学の成果や方法論を外国に発信するとともに学生には外国の考古学を勉強することも勧めています。





文化人類学は、世界の多様な社会と文化、思想をフィールドワークと民族誌、資史料にもとづいて精緻に理解するとともに、人類史的な比較の視点から、人間の本質の解明をめざす学問です。

異文化や過去の社会では、現在の私たちが常識と考えていることが常識ではない場合があります。それでは、人類の思考、社会のあり方、法律、道徳、経済、宗教、芸術などには何らかの普遍性があるのでしょうか。百聞は一見に如かず、具体的なフィールドワークや文献調査をおとして、これらの問題を考えてみましょう。こうして、異文化と自文化を行き来し、空間と時間を超えて、「人類」という大きなスケールで、生物の一種でもあるヒトとは何か、社会とは何か、文化とは何か、人間は何をどのように思考してきたのか、

といった問題を考えることを人類学的思考と呼びます。それは、自分が暮らす社会、そして世界の情勢を洞察する確かな眼を養ってくれるはずです。

その思考の出発点となる題材は、私たちの身の回りにあふれています。衣食住、結婚と家族・親族、社会構造、お祭りや地域の伝統文化、神話、芸能、コミュニケーションといったおなじみの題材はもとより、私たちが直面している社会問題や環境問題もそこに含まれます。文化人類学は、人文学の中でもっとも幅が広く、もっとも奥行きが深い学問分野です。異なる文化、社会、思想への関心はもちろん、幅広い知的好奇心をお持ちの皆さんを私たちは歓迎します。

阿部 泰郎 教授

修士 宗教テキスト学、日本説話文学、芸能史

- ・「中世日本の宗教テキスト体系」(名古屋大学出版会、2013)
- ・「中世日本の世界像」(名古屋大学出版会、2018)

佐々木 重洋 教授

博士(人間・環境学) 文化人類学

- ・「仮面パフォーマンスの人類学—アフリカ、豹の森の仮面文化と近代」(世界思想社、2000)
- ・「物質性」の人類学—世界は物質の流れの中にある」(共編著、同成社、2017)

博士論文

諏訪大社御柱祭の文化人類学的研究—祭礼の存続と民間信仰—/出生と養育に基づく複数の・多元的親子関係—ナイジェリア北部・ハウサ社会における『里親養育』の民族誌から—/社会主義中国内モンゴルにおける牧畜文化—社会主義的集団牧畜から資本主義的酪農文化へ—/ジンバブエ祭祀音楽の政治・宗教構造/輪中における水制御と水の神性—水共同体のエートス—/日本宗教伝承の諸位相—小野篁冥界伝承と牛頭天王信仰—/インドネシア現代美術と美術家—つくる・買う・支援する主体をめぐる民族誌—/物質性をめぐる人類学的研究—日本刀の事例における製作、意味の生成、社会関係を中心に—/絵ものがたりの形成と再創造/「伝統」・移住・文化祭創造—現代のマオリタンガー

修士論文

地域観光を創造するまなざし—山梨県勝沼地域における葡萄観光活動の事例から—/人と動物の関係性に関する文化人類学的研究—三重県桑名市の上げ馬神事を事例に—妖怪ウブメ・子育て幽霊伝承に見る妊娠・出産観/「ヒバクシャ」を生きた人々/叙尊をめぐる元寇祈祷と舍利信仰の考察/「やまがの衆」が語る過疎化と現代/Rethinking Motherhood and Ethnicity in Peruvian migration to Japan

近本 謙介 准教授

博士(文学) 宗教テキスト学、日本中世文学、日本思想史

- ・『春日権現験記絵注』(共編著、和泉書院、2014年改訂重版)
- ・『天野山金剛寺善本叢刊第一期 第二巻:教化・因縁篇』(共編著、勉誠出版、2017)

東 賢太郎 准教授

博士(文学) 文化人類学

- ・『リアリティと他者性の人類学—現代フィリピン地方都市における呪術のフィールドから』(三元社、2011)
- ・『リスクの人類学—不確実な世界を生きる』(共編著、世界思想社、2014)

講義題目 (学部)

文化人類学概論I・II・III/文化人類学入門演習I・II/文化人類学フィールド入門実習I・II/日本思想史文化入門演習I・II/文化人類学講義I・II・III/日本思想文化論/文化遺産研究概論/文化人類学講義I・II・III/文化人類学フィールド実習Ia・Ib・IIa・IIb/日本文化フィールドワーク実習a・b/文化人類学演習Ia・Ib・IIa・IIb・IIIa・IIIb/文化遺産研究演習I・II

講義題目 (大学院)

日本思想文化特論/アーカイブス・テキスト学基礎演習/アーカイブス・テキスト学概論/アーカイブス・テキスト学フィールドワーク実習/宗教人類学基礎演習a・b/社会人類学基礎講義a・b/現代人類学基礎演習a・b/テキスト学先端研究/アーカイブス・テキスト学発展演習/宗教人類学発展演習a・b/社会人類学発展演習a・b/現代人類学発展演習a・b/比較人文学総合演習/博士論文研究Ia・Ib・IIa・IIb・IIIa・IIIb・IVa・IVb/比較人文学総合演習





映像学は、2017年4月の人文学研究科の発足とともに設置された新しい専門分野です。

映像の生産、流通、上映、表象、受容に関わる多様な側面を、歴史的・社会的・政治的・経済的・文化的・テクノロジー的・エコロジー的文脈を視野に入れながら、実証的・理論的に研究することを大きなビジョンとして掲げています。具体的な研究対象としては、映像批評理論、映画史、各国・地域映画、初期映画、越境映画、インディペンダント映画、映像文化（ジェンダー、エスニシティ、モダニティ、記憶、エコロジーなど）、ジャンル（ドキュメンタリー、アニメーションを含む）、スター、映画祭、観客、メディア産業、検閲、プロパガンダ、トランスメディア、デジタル映像、映像アーカイヴ、映像教育、

テレビ、写真などが挙げられます。

映像学は国際的な環境にあるというのが1つの大きな特徴です。授業は、日本語だけでなく英語でも教えられています。教員は皆、海外での研究・教育経験が豊富であり、留学生もさまざまな国から来ています。超域文化社会センターや国際プログラム群(Global30)「アジアの中の日本文化」とも密接に連携し、海外の研究者たちと共同で研究を進め、ワークショップやシンポジウムなどを共催しています。また現在、イギリスの大学とのジョイント・ディグリープログラムの設置も準備しているところです。大学院生がこうした国際的な舞台で経験を積むことを重視しています。

藤木 秀朗 教授

Ph.D. 映像社会史、映画理論

- ・*Making Personas: Transnational Film Stardom in Modern Japan* (Harvard University Asia Center, 2014)
- ・*The Japanese Cinema Book* (co-ed., British Film Institute, 2018)

小川 翔太 准教授

Ph.D. 映像社会論、視覚文化史

- ・“Rerouting the Modernist Visions of Horino Masao,” *Trans Asia Photography Review* 8(2) (Spring 2018)
- ・“A Long Way Home: The Rhetoric of Family and Familiarity in Yang Yong-hi’s Pyongyang Trilogy,” *Journal of Japanese and Korean Cinema* 9(1) (2017)

馬 然 准教授

Ph.D. 映像文化論、トランスナショナル映画

- ・“A Landscape Over There: Rethinking Translocality in Zhang Lu’s Border Crossing Films,” *Verge: Studies in Global Asia* 4(1) (2018)
- ・“Asian Documentary Connections, Scale-making, and the Yamagata International Documentary Film Festival (YIDFF),” *Transnational Cinemas, online* (September 2017)

博士論文

中国映画スターをめぐる文化のグローバル化——章子怡のイメージ形成／映画における文学の受容——1910年代から1950年代までの「文芸映画」とその変遷／「監督」の創生——作家イメージ・文化産業・日本映画の近代

修士論文

戦前・戦時日本におけるアニメーションにおけるリアリズムの探求／サイレント映画と「大写真」——日本映画におけるクロスアップ／身体を表象する——女性のセルフドキュメンタリー映画／『未完の対局』(1982)をめぐる友好と交渉——1980年代の日中合作映画／ファンタジーを表象する——宮崎駿のアニメ映画におけるランドスケープ／語る声の生成——トーキーへの転換と日本映画のヴォイス・オーバー／居住空間イメージの戦後——1960年代団地映画をめぐって

教員からのメッセージ

学部で異なる分野を専攻した方も受験可能です。授業訪問、研究室訪問はいつでも歓迎します。





日本文学専門は、学部生は所属しない大学院専担の講座である。地域や学問領域をまたいで多角的に日本文化を捉え直し、積極的に研究成果を社会に問うていく大学院生・研究者を養成している。とりわけ東アジア地域の関係性の中において日本文化の姿を捉え直す人材を育てていくことを目的とする点に特色がある。

講座の教員は、東アジアを視座とした比較研究や表象文化論、詩論、日本近現代文学・文化研究、ジェンダー研究、植民地文化論、出版文化論などを主たる研究領域としている。教員組織としての「日本文化学」には、他に英語で行われる「アジアの中の日本文化」プログラムを担当する教員も所属しており、連携しながら教育研究を進めている。所属する学生

は、博士研究員・博士候補研究員まで含めると総勢50名を越す大所帯であり、そのうち半数程度が中国・韓国・台湾などからの留学生である。

授業としては、通常の各教員のゼミに加えて、4名の教員が参加するチーム・ティーチングの授業があり、専門分野を超えた議論ができるよう配慮している。また講座の教育・研究活動の一環として人文学研究科附属超域文化社会センターが主催するシンポジウムやセミナーに、積極的に協力・参加している。このセンターには映像学、日本史、ジェンダー学専門の教員・院生も関わっており、交流が深い。常に日本の外からの視点や隣接分野の知見が交錯する、賑やかで開放的な講座である。

飯田 祐子 教授

博士(文学) 日本近現代文学・文化

- ・『彼女たちの文学 語りにくさと読まれること』(名古屋大学出版会、2016)
- ・『彼らの物語 日本近代文学とジェンダー』(名古屋大学出版会、1998)

胡 潔 教授

博士(人文科学) 平安文学、比較文化史、古代日本家族史

- ・『律令制度と日本古代の婚姻・家族に関する研究』(風間書房、2016)
- ・『平安貴族の婚姻慣習と源氏物語』(風間書房、2000)

博士論文

『方丈記』における「閑居」の世界——〈仏〉〈隠〉融合の視点から／『新撰万葉集』の漢詩にみられる和歌的表現／暗号化の文学的手法と植民地的実存—李箱解釈の一視座—／田村俊子と張愛玲の比較文学的研究——女性作家が「見える」こと——／当事者が語る——ハンセン病患者と文学者は如何にハンセン病問題と関わったのか／日中大衆化社会における〈事件の物語〉——「松本清張」ブームの比較文化論／村上春樹文学における 20 世紀後半の理想主義への応答——全共闘運動・コミュニケーション・宗教性の相対化から信仰の再構築へ／現代女性作家とメディア表象をめぐる日中間横断研究・トランスナショナル・フェミニズムの視座から／日本人の疎開体験をめぐる文化史的研究／日本アニメにおける3DCGの適切な導入と人材の育成についての考察

修士論文

『うつほ物語』における俊菫女の人物像研究／『古今和歌集』における「羈旅」の受容——巻第九「羈旅歌」の成立をめぐる／日本近代文学における踏切の表象——「立ち止まり」と「恐怖」を中心に／〈視覚体験〉を語る——志賀直哉論／佐藤春夫の台湾および支那表象におけるノスタルジア／泉鏡花と関東大震災——復興による喪失語りの失調をめぐる／井上靖と〈中国〉——戦場体験、歴史小説、文化大革命／大阪万博と文学——1970年代の作品を中心に——／A study of Japanese fans' attachment to manga and anime／宮崎駿作品における戦争表象についての考察

日比 嘉高 准教授

博士(文学) 近現代日本文学、移民文学、出版文化

- ・『文学の歴史をどう書き直すのか 二〇世紀日本の小説・空間・メディア』(笠間書院、2016)
- ・『ジャパニーズ・アメリカ 移民文学、出版文化、収容所』(新曜社、2014)

涌井 隆 教授

Ph.D. 日本近現代詩

- ・『A Tokyo Anthology: Literature from Japan's Modern Metropolis, 1850-1920』(University of Hawaii Press, 2017)
- ・『伊東静雄と三島由紀夫』(『国文学年次別論文集』学術文献刊行会、1995)

教員からのメッセージ

日本文学講座では、文学を中心とした日本文化研究に関心をもつ大学院生を広く募集しています。指導可能な領域は以下のとおりです。源氏物語をはじめとした平安文学や日中比較文学、日本古代家族史。近現代の日本文学全般、とりわけジェンダー批評や女性文学、植民地文学、出版文化にかかわるもの。詩を中心とした比較文学、表象文化、アニメーションなど。





生まれた地域や国を離れ、異なる文化環境で暮らす人々は、年々増えています。同じ文化の人々に囲まれ、自分がどのような文化に所属しているか考えたことなかった移動者は、新しい地で生活をしているなかで、受け入れ社会の人々と接触し、共に働き、共に生活を営み、他文化の相手と結婚し、次第に自分のアイデンティティについて考え始めます。受け入れ社会の側でも、他者との接触を通じて社会関係は変容し、統合や排除をめぐる動きが生まれてきます。また、近代化、グローバル化、情報社会の到来に伴い、文化的規範、慣習、祭りなどが変容しはじめ、様々な新しい現象が生まれつつあります。

文化動態学という分野では、文化と社会がどのように変化していくか、移民、マイノリティの人々がどのように受け入れ国の人々、いわゆるマジョリ

ティと接触しているか、文化と文化の交流が国際社会にどのような影響を与えているか、どういう時に個人や集団の活動がナショナリズムの高揚の原因になっているか、移民が生み出した音楽などがどのように発展しているか、母国を離れ離散して住んでいる人々がどのように繋がっているかなどというテーマをはじめ、数多くのトピックを取り扱っています。

大学院の授業では様々な理論を学び、多くの文献、資料を読むことによって社会変容の諸側面をより深く理解することになりますが、それに限らず、自らインタビューを実施し、集めたデータを分析し、これまで誰も考えてこなかった問題に光を当てることにも挑戦できます。文化や社会の新しい現象の発見に参加してみませんか。

田所 光男 教授

修士(文学)、D.E.A.(国際文化関係論) 比較文学、比較文化

- ・『私にはいなかった祖父母の歴史—ある調査—』(翻訳、名古屋大学出版会、2017)
- ・『ショア—歌うジャン・フェラとジャン=ジャック・ゴールドマン』、『Autres』9 (2018)

水戸 博之 教授

修士(文学) スペイン語圏・ポルトガル語圏の文化史

- ・『キリスト教宣教の諸相』『文化創造の図像学』(勉誠出版、2012)
- ・『初級スペイン語教本エクセレンテ改訂版』(共著、朝日出版社、2015)

西村 秀人 准教授

修士(国際関係論) ラテンアメリカ地域研究、音楽社会学

- ・『現代ラテンアメリカにおける民衆文化の意味—アルゼンチン・タンゴを中心としたポピュラー音楽論の試み』(上智大学イベロアメリカ研究所、1992)
- ・『日本におけるアルゼンチン・タンゴの受容—ソフトなパワーとしてのダンスと音楽』『地球時代のソフトパワー—内発力と平和のための知恵』(行路社、2012)

博士論文

Literary translators as peritextual authors: Conventions, agency, and image building in the writing of Japanese translator commentary / ハーンのミューズ—「暗号」解読の試み— / Las imágenes negativas de los sefardíes en la historiografía española anterior a la época de los Reyes Católicos — la ruptura entre las historiografías católica y sefardi— / 16世紀ブラジルにおける先住民によるキリスト教解釈: 『カライーバ』とトゥピ語カテキズムの分析を通じて / ブラジルとベネズエラにおける民主主義 — 参加型制度の比較分析— / アルゼンチンのナショナリズムとフォークロアの思想史 — イスパノアメリカ知識人による人種・民族的自画像の系譜— / ウズベキスタンのコリョサラムの移住及びホスト社会における適応 — ロシアと韓国における事例の比較研究— / 名古屋華僑社会の歴史の変遷及び新たなコミュニティの形成と発展

修士論文

占領期における日本人の海南島認識 / 「引揚げ」文学における満洲表象—『けものたちは故郷をめざす』と『アカシヤの大連』を中心に— / フランスにおける教育と「機会の平等」—パリ政治学院特別選抜制度の事例を通して— / L'affaire du foulard islamique: les jeunes musulmanes en France à la recherche d'une identité / 洋楽愛好者の音楽文化の捉え方に見られる特徴 — YG性格検査とインタビュー調査を中心に— / 在日ペルー人における地域活動の文化継承的役割 — 愛知県豊川市のペルー人コミュニティを事例として— / 中国における『漢服運動』の発生と展開に関する研究 / 在日コリアン・オールドカマーとニューカマーの関係性について— 民団、青年会、そして韓人会を事例に / 日本の多文化共生政策と諮問機関の役割—対話の場と政治参加の機会を中心に—

イベント

難民をテーマとするイベントを6月16日に開催します (『世界難民の日2018東海』文化動態学後援)。映画「シリアに生まれて」を上映後、日本在住シリア難民と弁護士との証言を通じて難民問題について考えます。

学生からのメッセージ

越境、移動、統合など動的過程に関する移民、マイノリティなどの専門授業は刺激で、知的領域の広がりを感しながら、充実した日々を過ごしました。思考力と想像力が養われ、物事を多角的に捉えられるようになりました。(博士後期課程2年 劉罡)





「ジェンダー」とは一般的に、生物学的な性差に対し、社会的・文化的に構築された性差である、と説明されます。そうした性差を切り口に、様々な状況で支配的な権力を持つ「主体」と、周辺に押しやられ抑圧される「客体」との関係性を捉えようとするのがジェンダー学といえるでしょう。ジェンダーに気づき、敏感になって物事を見直せば、当然常識だと思っていたこと、何度となく鑑賞してきた作品が、思いがけない、時にショッキングな様相をもって立ち現れます。こうした視点の転覆の中で、他者の多様な在り方を受容する柔軟な思考—それは、人々が互いを尊重しつつ、共生するために不可欠と言えましょう—が鍛えられます。

現在、大学院には日本のみならず、様々な国—中国、韓国、台湾、インドネシア、ルーマニア—から集まった約30名の学生が在籍し、文学、映画、漫画、アニメ、テレビCMや雑誌広告、社会における性別役割分業、LGBT、メディアと社会・文化、インターネット言説、ファッション等をめぐって議論を交わし、研究しています。2018年度には学部2年生対象の「ジェンダー学基礎演習1,2」が、19年度からは同じく3、4年生向けの授業もスタートします。

また、17年11月に地下鉄1番出口に近い校内に「ジェンダーリサーチライブラリ(GRL)」が開館し、ジェンダー研究の環境が一層充実しました。

新井 美佐子 准教授

博士(経済学) 社会・経済に関するジェンダー

- ・「フランスの対人サービス企業における賃金決定の事例考察」『言語文化論集』37(2) (2016)
- ・「フランスの保育システムの現状と課題」『ジェンダー研究』19(2017)

金 相美 准教授

博士(社会情報学) メディア・コミュニケーション論、ニューメディア論

- ・「韓国の情報化と縁故主義ネットワークの変容」(ミネルヴァ書房、2011)
- ・「メディアの卒論:テーマ・方法・実践」(第2版)(共著、ミネルヴァ書房、2016)

古田 香織 准教授

修士(文学) 文化記号論、広告文化論、世紀転換期ドイツ語圏芸術運動

- ・「ドイツ総合芸術誌『ユージェント』("Die Jugend")における女性像」『言語文化論集』36(1) (2016)
- ・「ゲオルク・ヒルトと『ユージェント』」『世紀転換期ドイツ語圏の芸術誌の諸相』(2014)

星野 幸代 教授

博士(文学) 近現代中国文学、日中比較現代舞踊史

- ・『日中戦争下のモダンダンス—交錯するプロパガンダ』(汲古書院、2018)
- ・『越境する中国文学—新たな冒険を求めて』(共著、東方書店、2018)

松下 千雅子 教授

博士(文学) クィア理論、セクシュアリティ論、LGBT研究

- ・『クィア物語論—近代アメリカ小説のクローゼット分析』人文書院、2009
- ・"Who's Afraid of the Beast in the Jamesian Closet?" *Journal of Homosexuality* 64(12) (2017)

博士論文

Adolescence, Love and the Meaning of Life in Everyday Taipei: The Films of Edward Yang. April 2015 / 「セクシュアリティから見る丁玲文学における周縁性—知識人・レズビアン・性的被害者の女性たちをめぐって」平成25年3月 / ヘミングウェイ・テキストにおける身体表象分析—権力・棄却・パフォーマンス・ヴィジュアル・Fantasy at Play: Gender and sexuality in English-language Japanese video game fandoms / Cultural Translation and Representation of Mother-Daughter Relationships: A Study of Works by Maxine Hong Kingston, Amy Tan, Fae Myenne Ng, and Mei Ng / 性を演じる—映画における異性装とジェンダー—

修士論文

わが国の母親向け育児雑誌における『父親』/ 福祉系NPO正規職員の就労実態とアイデンティティ / パラエティ番組『世界ナゼそこに日本人—知られざる波瀾万丈伝—』におけるジェンダーイメージに関する研究—内容分析とディスコース分析を用いて— / 中国人留学生のソーシャルメディア利用と異文化適応 / 「獣耳」は何を意味しているのか?—日本のポップカルチャーにおける日本型動物キャラクターの表現形態について— / 「Pocky」の広告を読み解く—テレビCM、ポスター、パッケージにおけるイメージ形成を中心に— / マンガのジェンダー表象研究—24年組「少年愛」の系譜から / 時空を超えるレズビアン連続体—『自梳』における女性の親密関係の再読— / Outside the Olympic Rings: Non-binary gender in competitive sports events / ハイヒールを履く男のハイブリッド男性性

指導可能領域

フェミニスト批評・理論 / クィア批評・理論 / アメリカ文学 / 中国・台湾文学 / 中国・台湾女性史 / 台湾映画 / 中国近現代舞踊史 / ポピュラーカルチャー / サブカルチャー / (文化)記号論 / メディア文化論(広告・女性誌) / コノテーション論 / 映像・視覚文化 / インターネット社会論 / メディア・コミュニケーション論 / メディア社会心理学 / 若者論 / スポーツ / 経済 / 労働 / 社会政策・制度 / フェミニスト経済学





朝、一杯のコーヒーを飲みながら新聞に目を通す。そのコーヒーは、グローバルに展開する資本主義のシステムを通じて地球の裏側の国々とながっています。一方、戦争や政変や危機や災害を報じる記事の陰には、私たちとよく似た無数の家族や恋人たちが住んでいることでしょう。身近な出来事を広い文脈と結びつけて考える能力、またそれとは逆に、広い世界の出来事を身近な問題として考える能力のことを、社会学的想像力と呼びます。

社会学研究室の4名のスタッフは、階層社会に拮抗してゆるやかなネットワークを形成しようとする人々の集合行為の可能性に注目したり、グローバル化する現代社会におけるローカル・コミュニティの価値を過疎地に寄り添って探究したり、アジアの地域統合と国内の地方分権が進む時代にふ

さわしい福祉モデルを国際比較の方法で追求したり、経済と社会の多様な相互作用や労働市場で生じる格差と不平等の問題を理論的かつ経験的に分析したりしています。どの研究も、現代社会学の最先端を切り拓くものばかりです。

社会学は、人々のあいだの「関係」に着目して社会現象や社会問題を解明しようとする学問です。その研究領域は、家族、教育、産業、労働、地域、福祉、環境、災害、政治、経済、宗教、科学技術、メディアなど多岐にわたります。社会学研究室では、ゼミや講義を通じて基礎理論を批判的に学ぶとともに、調査実習や卒業研究を通じて社会の現実に向き合う技法を体得します。お互いに議論し刺激しあう仲間のいる、活気に満ちてあたたかい研究室です。

丹辺 宣彦 教授

博士(社会学) 階級・階層論、集団・ネットワーク形成の社会学

- ・「社会階層と集団形成の変容——集合行為と「物象化」のメカニズム」(東信堂、2006)
- ・「豊田とトヨタ——産業グローバル化先進地域の現在」(共編、東信堂、2014)

室井 研二 准教授

文学修士 地域社会学、災害社会学

- ・「都市化と災害」(大学教育出版、2011)
- ・「発展途上国における開発と災害——スマトラ地震とアチェの事例」『地域社会学年報』30(2018)

博士論文

現代都市政治におけるレジームの流動化——名古屋市政の政治社会学的研究／遺跡から「聖地」へ——インド・ブダガヤにおける「聖地」再建のダイナミクス／多国籍ユニオニズムにおける運動資源の動員構造と戦略的アプローチの解明——GUの事例分析をとおして／異質な他者との共存様式——タイ日系企業の工場労働現場における相互行為論的分析／公害の社会的制御の展開過程——四日市市を事例として／帝国期日本のネーション形成と人種・民族研究の学知形成に関する移動論的研究——日本と台湾の博覧会事業および観光政策に注目して／日系南米人受入れにみる「準・公共性」とその限界——三重県鈴鹿市の事例研究より／地場産業の存続と共同性——愛知県瀬戸市陶磁器産業を事例として／「食育」のシンボル構造と集合行為をめぐるダイナミクス——日本のスローフード運動とJA食農教育に注目して／「共助」の仕組み——災害支援に関する比較研究

修士論文

台湾第四原発反対運動の展開過程——緑色公民行動聯盟の「社区造営」に着目して／中国フェミニズム運動のインターネット空間における展開——「Weibo」・「Wechat」を活用するSMOを中心に／観光化する空間——金沢市ひがし茶屋街の事例研究／河川の近代化と水防共同体の変容——輪中地帯の消防団・水防団を事例として／環境ローカルガバナンスの再検討——岐阜県多治見市甘原町における「意図せざる結果としての環境保全」／障害者運動における健常者の動員とそのコミットメント——NPO法人「わっぱの会」を事例に／災害復興におけるローカルガバナンス——宮城県・東松島市を事例として／カナダの日系・中国系専門職移民における移住動機と滞在動機——「社会比較」と「社会批判」という語りの考察／帝国期日本における満洲農業開拓移民事業の動員構造——「メディアエーター」としての農本主義者・加藤完治の思想と実践／高齢者の社会参加とネットワーク

上村 泰裕 准教授

博士(社会学) 福祉社会学、比較アジア社会論

- ・「福祉のアジア——国際比較から政策構想へ」(名古屋大学出版会、2015)
- ・「若者問題と教育・雇用・社会保障——東アジアと周縁から考える」(共編、法政大学出版局、2011)

福井 康貴 准教授

博士(社会学) 経済社会学、社会階層論

- ・「歴史のなかの大卒労働市場——就職・採用の経済社会学」(勁草書房、2016)
- ・「入職経路の個人内効果——非正規雇用から正規雇用への転職のパネルデータ分析」『ソシオロジ』61(3)(2017)

学生からのメッセージ

社会学研究室で学ぶと自主性が身につきます。調査実習では、ワークライフバランスについて企業にインタビューし、皆で戦略を立てて分析しました。そして、人々を幸福にする働き方を探求したいと思い、デンマークに留学しました。(学部3年 山田郁大)





心理学は、人間の意識や行動を決定する条件やその仕組みを科学的に分析する学問です。ですから心理学は、哲学などの人文科学、社会学などの社会科学、さらには生理学などの自然科学のすべてと関係をもつ幅広い研究領域です。その中でも、私たちの研究室では、とくに、知覚・記憶や思考の成り立ちを分析する認知心理学、脳を中心とする神経過程と心の関係を調べる生理心理学、人間と動物を比較することによって行動進化や心理発達の問題を扱う比較心理学、知識が獲得される基礎的過程を考える学習心理学、他者や集団に対する認知や行動を追究する社会心理学、脳の活動を画像化してとらえる認知神経科学など、基礎的



な分野を中心とした研究教育が行われています。このような研究のためには、実験、観察、調査などの方法を用いて「事実」を集めなければなりません。「私はそう思うから…」とか「誰れがそう言っていたから…」ということではなく、あくまでも客観的な事実(データ)でモノを言わなければなりません。そのためには、事実を集めるためのしかるべき方法(実験法、観察法、調査法など)をきちんと理解しておく必要があります。そこで、これらの研究法の基礎を習得するための演習や実習の授業が数多く組まれています。また、授業以外の場所でも、文献講読や共同実験など、教員と大学院生・学部生との間の緊密な関係に基づいて研究が進められています。

大平 英樹 教授

博士(医学) 生理心理学、感情心理学

- ・「感情心理学・入門」(有斐閣、2010)
- ・“Neural Mechanisms Mediating Association of Sympathetic Activity and Exploration in Decision-Making,” *Neuroscience* (2013)

田邊 宏樹 教授

博士(医学) 認知神経科学、社会脳科学

- ・“Neural Substrates of Shared Attention as a Social Memory: A Hyperscanning Functional Magnetic Resonance Imaging Study,” *NeuroImage* 125 (2016)
- ・“Reconstructing the Neanderthal Brain Using Computational Anatomy,” *Scientific Reports* (2018)

教員からのメッセージ

当心理学教室では、実験心理学を基盤としながら生理学、神経科学等の多様なアプローチを取り入れています。既存の心理学の枠組みを超えて「こころ」の謎を科学的に解き明かすことに情熱を持てる学生を歓迎します。

片平 健太郎 准教授

博士(科学) 計算行動科学、学習心理学

- ・“How Hierarchical Models Improve Point Estimates of Model Parameters at the Individual Level,” *Journal of Mathematical Psychology* 73 (2016)
- ・“A Theoretical Framework for Evaluating Psychiatric Research Strategies,” *Computational Psychiatry* 1 (2017)





「そこに山があるから」登るのだという登山家の言葉があります。それはきっと、山を愛する人々が共有する、一種のロマンなのでしょう。では、なぜそこに山があり、山の向こうに何があるのでしょうか。地理学はそんな素朴な思いを、空間・地域・場所といった考え方を通じて体系的に捉える学問です。身近な地域に対する複雑な感情からグローバルに展開する環境問題まで、地表上のあらゆる現象を「空間」というプリズムによって鮮やかに映し出す、それが地理学なのです。

地理学教室では、空間的な見方に関する理論を学ぶ講義や国内外の文献を読みこなすための文献演習や講読が行われます。また、実践的な手法を身につける実習に特色があります。例えば、大量の地域データの処理法を学ぶ地理情報システム実習、気がつかなかった大地の素顔が見

えてくる地形観察の現地実習(巡検)などです。2,3年次の夏に出かける4泊5日の野外実習では、実地調査に挑みます(2018年度は石川県金沢市で実施予定)。その経験や反省をもとに、4年次にはよいよ卒業論文に取り組みます。図書館の書庫ではこりまみれになったり、ボーリング調査にかけて泥だらけのまま眠りこんでしまったり、山村調査のおみやげに蜂の子を持って帰ったり……。こうした体験をつんだ卒業生達は、学界、官界、マスコミなど、様々な世界で活躍しています。

「空間」を通じて、環境をともに考える諸君を、私たちは歓迎します。地理学専門・分野の詳しい情報については、以下をご覧ください。

<http://geog.lit.nagoya-u.ac.jp/index.html>

岡本 耕平 教授

博士(地理学) 人文地理学、行動地理学

- ・“Time-Geography in Japan,” *Time-Geography in the Global Context* (Routledge, 2018 予定)
- ・「新版図説名古屋圏」(共著、古今書院、2011)

高橋 誠 教授

博士(地理学) コミュニティ研究、災害研究

- ・「大津波を生き抜く」(共著、明石書店、2012)
- ・「スマトラ地震による津波災害と復興」(共編、古今書院、2014)

横山 智 教授

博士(理学) 文化地理学、東南アジア地域研究

- ・「納豆の起源(NHKブックス1223)」(NHK出版、2014)
- ・「サステイナビリティー地球と人類の課題ー」(共編、朝倉書店、2018)

卒業論文

東北こけし産地と蒐集家に関する研究／名古屋市における放置自転車の循環利用／小学校の社会科副読本にみられる地域像の変遷ー愛知県一宮市を中心にー／愛知県における家庭用水道料金の地域格差／中部地方3県の獣害をめぐるポリティカルエコロジー／名古屋港の機能の変遷とウォーターフロント開発／東海地方におけるブルーグラス音楽の展開／粒度組成からみた木曾三川開析谷の埋積過程／利根川東遷事業以後における利根川下流低地の地形変化／八重山諸島におけるマングローブ林海側林縁部の立地変動と植生動態

奥貫 圭一 准教授

博士(工学) 地理情報科学、都市空間解析論

- ・「ネットワーク空間解析」『空間解析入門』(朝倉書店、2018 予定)
- ・“Urban Analysis with GIS,” *GeoJournal* 52 (2001)

堀 和明 准教授

博士(理学) 自然地理学、地形学・堆積学

- ・“Classification, Architecture, and Evolution of Large-River Deltas,” *Large Rivers: Geomorphology and Management* (John Wiley & Sons, 2008)
- ・“Response of a Coarse-Grained, Fluvial to Coastal Depositional System to Glacioeustatic Sea-Level Fluctuation since the Last Glacial Maximum: An Example from the Tenryu River, Japan,” *Journal of Sedimentary Research* 87 (2017)

伊賀 聖屋 准教授

博士(地理学) 経済地理学

- ・“Shrimp Cultivation Network in Post-Tsunami Aceh,” *International Comparative Study on Mega-Earthquake Disasters: Collection of Papers 2* (2017)
- ・「能登地域におけるワイン専用種ブドウの供給体系の生成」『経済地理学年報』63(2017)



English Professionals Training Course

英語高度専門 職業人コース



木下 徹 教授
松岡光治 教授
尾関修治 教授
上原早苗 教授
杉浦正利 教授
渡辺美樹 准教授

英語高度専門職業人コースでは、英語教員、翻訳者、通訳者、一般企業等組織の国際関連職員といった英語スペシャリストに必要な英語の知識と運用能力を習得させ、英語圏文化に精通した上で分析・批評できる能力を養成すると同時に、国際的視野に立って地域社会に貢献する人材を育成します。問題意識の高い学部の新卒学生に加え、社会人リカレント教育の一環として在職のまま就学する社会人や中等教育機関の英語教員も積極的に受け入れています。また、大学卒業後に就職したが、より高度で学問的な環境の中で自分を見つめ直してみたい人や、自分の専門的な研究はかなり進んでいるが、別の角度からもっと知的な刺激が必要だと感じている人なども歓迎します。授業科目には、英語圏の文化や歴史を学ぶ科目、英語教育および第二言語習得関連科目、翻訳・通訳の実技演習、英語母語話者による英語表現演習などがあり、学生の目的に応じた多様なカリキュラムが構築されています。名古屋大学では学生の英語教育に e-learning を活用しており、当コースでは e-learning 教材の作成やネットワークを利用した教授法などについて学ぶこともできますし、実際に翻訳や通訳の現場で活躍されている先生の授業を受けることもできます。

Transnational Interaction and Diversity Studies Course

国際・地域共生促進コース



文化動態学
田所光男 教授
水戸博之 教授
西村秀人 准教授
鶴巻泉子 准教授
サヴェリエフ イゴリ 准教授
坂部晶子 准教授

ジェンダー学
松下千雅子 教授
星野幸代 教授
古田香織 准教授
新井美佐子 准教授
金 相美 准教授

応用日本語学
衣川隆生 教授
俵山雄司 准教授

日本文化学
飯田祐子 教授
胡 潔 教授

文化人類学
佐々木重洋 教授
東 賢太郎 准教授

2017年、人文学研究科の創設にともない、新たにスタートしたプログラムです。愛知県にはおよそ22万人の外国籍の人々が暮らしています(県内総人口の3%程度)。減少した時期もありますが、ほぼ一貫して増加の一途をたどっています。異なる文化・言語・習慣・価値観などをもつ人々は、受け入れ社会とどのような関係を持ってきたのか、その関係はどう変化していくか、移住者たちの思いはどんなものなのか、その子供たちに何が必要なのか、考えるべきテーマはたくさんあります。

そのためには世界の広い地域で起こっているさまざまな社会現象や文化接触のあり方に目を向け、学び、考えることが肝要となります。このプログラムでは5つの異なる分野の教員たちが授業を提供し、多文化共生の現場における実習の授業も含まれています。

グローバル化に伴い国際社会や地域社会で生じている多言語・多文化状況を解明しつつ、その状況を支えている共生言説を批判的に考察することを踏まえて、多様な差異(エスニシティ・ジェンダー・宗教・階級・国籍・記憶・移動理由など)の接触や衝突に発する諸問題を解決する方策を研究する人を養成するのが、本プログラムの目的です。(本コースは修士課程のみです)

Linguistics and Cultural Studies Program 言語学・文化研究プログラム



Kimi Akita Associate professor
Edward Haig Professor
Makoto Hayashi Associate professor
Kaoru Horie Professor
Shinji Ido Associate professor
Akiko Itoh Designated associate professor
Sang-Mi Kim Associate professor
Chikako Matsushita Professor
Dylan McGee Designated associate professor
Koji Miwa Associate professor

Remi Murao Associate professor
Akitoshi Nagahata Professor
Yoshikazu Oshima Associate professor
Katsuo Tamaoka Professor
Takashi Wakui Professor
Alex Watson Associate professor
Junko Yamashita Professor
Eiko Yasui Lecturer

What is the real meaning of globalization? How can we ensure that the various dimensions of globalization contribute positively to greater peace, cooperation and understanding between nations? What roles do language and culture play in achieving these goals? What forms of knowledge and skills concerning language and culture do the youth of today – and the leaders of tomorrow – need in order to take an active part in promoting them? Located in the center of Japan, an ideal site from which to study and experience both the historical roots and the latest developments of international society, Nagoya University's Linguistics and Cultural Studies MA program has been specifically designed to respond to such questions and meet such needs. The program will provide you with a transhistorical and multidimensional understanding of English, Japanese and other languages and cultures through a wide range of courses underpinned by a sound knowledge of linguistic and cultural studies methodologies and a thorough grounding in fundamental research skills.

The Japan-in-Asia Cultural Studies Program (JACS) 「アジアの中の日本文化」 プログラム



文学や様々な映画、映像を通じて日本文化を勉強します。

Kristina IWATA-WEICKGENANT
岩田クリスティーナ 准教授

Nathan HOPSON
ネイソン ホプソン 准教授

Ran MA
馬然 准教授

文学部では、国際化への取り組みの一環として平成26年10月から、英語で行われる授業だけを履修することで学位の取得が可能になる教育プログラムを開設することになりました。「アジアの中の日本文化」プログラムでは、近代文学、文化史、映像学、視覚文化を中心とした日本の近現代の文化を、東アジアをはじめとするさまざまな地域との関係性の中に位置づけて幅広く学びます。

「アジアの中の日本文化」プログラムに出願できる学生は、外国人留学生と帰国子女に限られますが、このプログラムの学生ではなくてもその授業は受講できます。

なお、「アジアの中の日本文化」プログラムの開設に伴い、新たに中国、ドイツ、アメリカ出身の教員3名が文学部の教授陣に加わりました。英語力強化だけでなく、グローバルな視点から日本や東アジアについて学ぶためにも、日本人教員の英語による授業に加えて、これら3名の外国人教員による授業も積極的に受講してもらいたいと思います。英語の使用は、英語力の向上のためだけでなく、外側から「日本」を考察するためにも大きな意味を持ちます。こうした包括的な視野と複眼的な視点は、グローバル化が進展する今日の文化状況を捉えていく上で不可欠なものとなっています。このプログラムは、地球規模で文化を論じることができる素養を高める良い機会となるでしょう。このプログラムについての詳細は、名古屋大学のホームページをご覧ください。

Research Center for Cultural Heritage and Texts 人類文化遺産テキスト 学研究センター



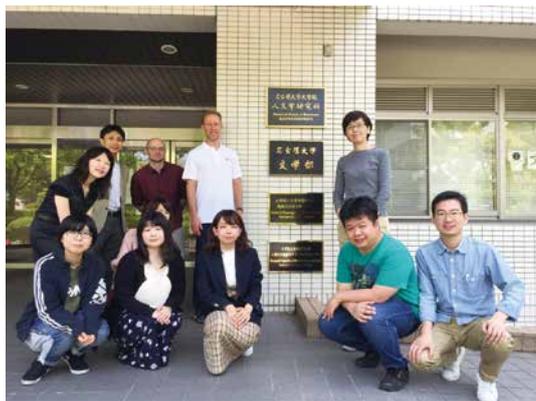
阿部 泰郎 教授
木俣 元一 教授
周藤 芳幸 教授

○名古屋大学における先端的人文学の拠点として、21世紀グローバルの二期10年間にわたるCOEで築かれたテキスト学の基盤を更に発展・推進するために、2014年に設立された。

○アーカイヴス/視覚分野/物質分野の三部間が互いに連携しつつ、歴史・美術・考古など人文学の諸分野を横断し総合融合し、人類文化の所産である諸位相の遺産の普遍意義をテキスト学という視点と方法によって解釈しつつ、その普遍的意義を発見していこうとする。

○その探究は、常に対象に則し、社会との関わりの中かで実践的に遂行されるべきであるとのポリシーの許に、大型科研(基盤S)「宗教テキスト遺産の探査と総合的研究」、同A「地中海世界における知の流動」や国際拠点形成事業「テキスト学による宗教文化遺産の普遍価値創成学術共同体の構築」など、多くの国際プロジェクトを相互に連動させながら展開しており、若手共同研究者が次々と参加して意欲的なテキスト学、に挑戦している。

Center for Transregional Culture and Society (TCS) 超域文化社会センター



飯田 祐子 教授
池内 敏 教授
藤木 秀朗 教授
星野 幸代 教授
ネイスン・ホブソン 准教授

超域文化社会センター(Center for Transregional Culture and Society, TCS)は、旧文学研究科附属の日本近現代文化研究センター(2008年10月~2013年3月)、「アジアの中の日本文化」研究センター(2013年4月~2018年3月)で行った日本近現代文化研究・東アジア関係学を継承し発展させながら、さらに広い視野で最先端の人文学研究を推進すべく、2018年4月に発足しました。TCSのミッションは、地球規模で喫緊の課題となっている社会・環境に関する諸問題に対して根源的な観点から向き合うことです。そのために、人類の歴史と人間の営みについてこれまで人文学研究で培われてきた深い洞察と広い知見を踏まえつつ、社会科学・自然科学の協力も得ながら、国・地域を超えた視点から歴史、芸術的想像力、思想、文化的実践を捉え直し、その知見を実践知へと発展させることを目指します。これに向けて、TCSは積極的に国際的共同研究を進め、国際シンポジウムやセミナーを開催します。大学院生の皆さんには、そうしたイベントが共に学び合い、コミュニケーション能力を高める場となるよう、企画・運営にも参加できる機会を提供しています。また、海外の大学と大学院生研究交流集会を共催することで、院生の皆さんが国際的な舞台で研究発表を行い、海外の研究者や院生たちと交流できる場もついています。TCSは、人文学の視点から国際社会へ貢献することとともに、大学院生の皆さんが将来グローバルに活躍できるための支援に努めています。

共通



博物館実習における設営作業終了時のひとコマ

個人としては博物館学、電子テキスト学、文学、言語学などを研究しており、専門科目や共通科目を担当しています。研究室ではありませんが、授業や研究のことなどの相談に積極的に応じています。

栗田教授は「一般博物館実習」や「西洋近世美術史」、重見准教授は「電子テキスト学」、クロス准教授は「英語教授法概論(院)」、ワトソン准教授は「文学理論(G30)」、トムキンソン准教授は「英米文学演習」、コンラート准教授は「ドイツ文化学研究(院)」などの授業を担当しています。

栗田 秀法 教授

博士(文学) 博物館学、西洋美術史

- ・『ブッサンにおける語りと寓意』(三元社、2014)
- ・『没後50年 ポナール展』(共編、愛知県美術館他、1997)

重見 晋也 准教授

文学修士 フランス文学・哲学、デジタル・ヒューマニティーズ

- ・*Concordance du «Roman de Renart» d'après l'éditions γ* (2001).
- ・*Quelles Sont les Conditions de L'organisation des Savoirs Humains? Dialogue entre Vannevar Bush, Theodore Nelson et Michel Foucault,* *Études Digitales* (2016)

ワトソン・アレックス 准教授

D.Phil. Post-colonialism, Romanticism

- ・*Romantic Marginality: Empire and Nation on the Margins of the Page* (Routledge, 2012)
- ・*British Romanticism in Asia, 1820-1950: Modernity, Tradition, and Transformation in India and East Asia* (共編, Palgrave Macmillan, 近刊)

トムキンソン・フィオナ ゲール 准教授

Ph.D. English Literature, Philosophy

- ・"Elizabeth's Pious Pilgrimage; or the Ghost in the Garden," *Women: A Cultural Review* 28 (2017)
- ・"Ishiguro and Heidegger: The Worlds of Art," *Kazuo Ishiguro in a Global Context* (Routledge, 2015)

甘 靖超 准教授

博士(学術) 民俗学、文化人類学、食生活学

- ・「中国村落の婚姻儀礼におけるモチ米食文化とその機能——江蘇省蘇州市古里鎮S家の事例」『生活学論叢』25(2014)
- ・「中国江南のモチ米食文化とその機能」『食生活科学・文化、環境に関する研究助成・研究紀要』30(2017)

コンラート・マルクス 准教授

国際化推進室



安井 永子 講師

Ph.D. (Communication Studies) 会話分析、相互行為分析、コミュニケーション学

- ・「直前の話し手を指さすこと -直前の発話との関連を示す資源としての指さし-」『社会言語科学』20(1) (2017)
- ・"Collaborative Idea Construction: Repetition of Gestures and Talk in Joint Brainstorming," *Journal of Pragmatics* 46(1) (2013)

グリブ・ディーナ 講師

博士(日本語教育学) 外国人を対象とする漢文訓読指導、ロシア語による日本語史資料

- ・「漢文訓読教育における入門教材としての四字熟語の分析」『専門日本語教育研究』18(2016)
- ・「四字熟語を題材とした漢文入門の教材の提案およびその実用性の検証 ——ロシア人日本語学習者に対する調査結果の分析を中心に——」『日本語研究』35(2015)

現在、文学部・人文学研究科には、学部生、大学院生、研究生、交換留学生を含め、十数ヶ国・地域から約300名の留学生が在籍し、それぞれの目的を持って日々の勉学に励んでいます。国籍や価値観、文化的背景が異なる多数の留学生が集まる国際的な環境で学ぶことは、留学生だけでなく、日本人学生にも大きな刺激となっています。

国際化推進教員2名と国際化推進室長からなる「国際化推進室」では、主に以下の活動を行っています。

- 在籍留学生のサポート
- 留学生の受入
- 文学部・人文学研究科に入学を希望する留学志願者への対応
- 留学や海外インターンシップを希望する日本人学生への相談・支援
- 協定校との国際交流活動

このほか、文学部・人文学研究科は世界各地の大学や研究機関と独自の協定を結び、国際シンポジウムの開催や短期プログラムなど多様な学術交流を活発に行っています。

助教

植田 裕志 助教

文学修士 フランス中世文学

- ・「恋愛についてどのように語るか—クレチヤンド・トロワ『クリジェス』」『名古屋大学文学部研究論集』178 (2014)
- ・“L'entrée en scène du héros dans le *Perlesvaus*,” *Etude de langue et littérature françaises* 52 (1988)

伊藤 伸幸 助教

博士(歴史学) 新大陸の考古学

- ・「中米の初期文明オルメカ」(同成社, 2011)
- ・「メソアメリカ先古典期文化の研究」(溪水社, 2010)

三田 昌彦 助教

文学修士 インド中世史

- ・「世界歴史大系南アジア史2中世・近世」(共著, 山川出版社, 2007)
- ・“Sanskritized Imperialism and State Integration in Early Medieval North India (c. 950-1200),” *State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia: A Comparative Study of Asian Society* (The Toyo Bunko, 2017)

張 婧禕 助教

博士(学術) 言語教育(日本語と中国語教育)・テスト理論・心理言語学

- ・「書字と音声提示のギャップ—日本人中国語学習者による読解と聴解の比較—」『漢語と漢語教学研究』8 (2017)
- ・「中国人日本語学習者によるNV型複合名詞の理解」『小出記念日本語教育研究会論文集』25 (2017)

朱 宇正 助教

博士 映画学・メディア学

- ・*The Cinema of Ozu Yasujiro: Histories of the Everyday* (Edinburgh University Press, 2017)
- ・“Rethinking Noriko: Marriage Narrative as Historical Allegory in Ozu Yasujiro's *The Moon Has Risen* and Other Occupation-era Films,” *Screen* 56(3) (2015)

中川原 育子 助教

文学修士 中央アジア美術史、仏教美術史

- ・「一宮市博物館像石造菩薩頭部彩色の分析」『帝京大学文化財研究所研究報告』17(共著, 2018)
- ・「シルクロード・キジル石窟壁画の材料・技法の研究」(日本学術振興会科学研究費補助金、基盤研究(B)海外、課題番号:24401021、研究代表者:佐藤一郎)(共著, 2016)

崎田 誠志郎 助教

修士(地理学) 人文地理学

- ・「広域漁協下における漁場管理の構造と変容—和歌山県漁協を事例として」『人文地理』67(2015)
- ・「和歌山県串本町におけるイセエビ刺網の共同体基盤型管理の多様性」『地理学評論』90(2017)

市川 彰 特任助教

博士(歴史学) メソアメリカ考古学

- ・「古代メソアメリカ周縁史」(溪水社, 2017)
- ・“The Effects on Ancient Maya Society of the Catastrophic Holocene-epoch Eruption of Ilopango,” *IAR Letters* 15 (2017)

程永超 特任助教

博士(歴史学) 17-19世紀東アジア国際関係史

- ・「通信使・燕行使と近世日本」(名古屋大学課程博士学位申請論文, 2017)
- ・「通信使関係倭情咨文と明清中国」『史林』99(6) (2016)

川本 悠紀子 特任助教

Ph.D. (Classics) 西洋古代史、西洋古典学、西洋建築史

- ・「古代ローマにおける視覚軸 —考古学資料の見地から」『建築の歴史・様式・社会』(共著, 中央公論美術出版, 2018)
- ・「オウイデウス『変身物語』」『名著で読む世界史120』(共著, 山川出版, 2016)

堀江 未央 特任助教

博士(地域研究) 人類学、西南中国研究、ジェンダー

- ・「娘たちのいない村—ヨメ不足の連鎖をめぐる雲南ラフの民族誌」(京都大学学術出版会, 2018)
- ・「中国雲南省ラフ族女性の遠隔地婚出 — ラフ社会における結婚との関わりに着目して —」『東南アジア研究』52巻1号(2014)

百合草 真理子 特任助教

博士(文学) 西洋中世美術史

- ・「バルマ、サン・ジョヴァンニ・エヴァンジェリスタ聖堂の天井画についての一解釈—典礼における機能とコレッジの創意との関わりから」『美術史』177冊(2014)
- ・“The Dome Painting of San Giovanni Evangelista in Parma: Correggio's Application of the Function of the Art Work to the Liturgy,” *Aesthetics* 22 (2018)

学芸員養成課程

名古屋大学文学部で取得できる資格の一つに、学芸員資格があります。学芸員は、博物館法に基づく専門的職員で、博物館(美術館、動植物園なども含まれます)における資料の収集、保管、展示、教育普及および調査研究など、博物館の活動において中核的な役割を担っています。この資格を取得するためには、所定の博物館関係科目の単位を修得して、大学を卒業する必要があります。

近年博物館に関わる法令が改正され、平成24年度入学生から新制度が適用されています。これにあわせて、文学部では、博物館学の専任教員を配置して学芸員養成課程の充実を図っています。

学芸員資格を希望する学生は、日本史学・美学美術史学・考古学専攻が主ですが、他の専攻の学生にも対応しています。また、名古屋大学大学院文学研究科では、「人文学フィールドワーカー養成プログラム」を設けて、野外や、資料所蔵機関へおもむいて調査研究を行うことを重視しており、文学部での学芸員養成課程もこれと大いに関係しています。

本学部ではこの課程を通じて学芸員という高度に専門的な職業人を養成することを目指していますが、いくつかの関係科目を受講するだけでも、資料に接する際に、これを適切に取り扱い、分析する訓練や、研究成果をわかりやすく説明する訓練にもなりますので、卒業論文執筆の際にも役立つかもしれません。

さらに、将来学芸員の職に就けなかったとしても、博物館学関係科目の履修を通じて、社会の中で博物館を理解し、これを有効に活用できる人材や、博物館外の資料も含め、文化財の保護・活用に貢献できる人材に育って欲しいと願っています。また、最近「博学連携」といって、博物館と学校の連携が期待されていますので、教職を目指す人にとっても本課程は大事な要素となるでしょう。現代の博物館では、マネジメント、情報・メディアなどが果たす役割が急速に増大しており、最新のミュージオロジーに接することは、人文学を社会で活かしていくための手がかりを得ることにもなるはずです。



学部在学生・卒業生からのメッセージ

夢・学問・国際社会をつなぐ

富田美咲

フランス語フランス文学第2 4年
(南山国際高等学校出身)



私は大学生活で主に勉学と、アイセックでの活動に励んでいます。アイセックは、海外インターシップの企画・運営を通して様々な分野の人を巻き込んで社会を引っ張っていただけるリーダーを輩出する世界最大の学生団体です。

文明や技術が進化しても、時代や文化が違っていても変わらない人間の本質に興味があり、文学部に入りました。私はもともとアフリカ地域の開発やヨーロッパの国際関係に興味があり、フランス語を学びフランス語圏の文学や歴史をたどることで、フランスや昔フランスの植民地だった国々に古くから根付く思想にたどり着けるのではないかと期待をもってフランス文学を専攻しています。研究室でこれから自分が興味のある分野を研究していくの

ですが、文学と社会学をつなげ、フランスの植民地だった地域で生まれたものを対象に研究していこうと思っています。

文学部って何をしているの?学んでどんな意味があるの?と聞かれることも少なくありませんし、私も最初は自信ありませんでした。しかし、アイセックで活動することで一人ひとりがそれぞれの専門性を活かして協力し合うことで社会に転がっている課題を解決できることや、一見関係のない分野の人の意見が思わぬ視点を与えてくれることに気づくことが出来ました。人間の本質や思想などはすぐに答えが見つからない問題ばかりで、すぐに実用性のあるものでありませんがこれからも自信をもって学び続けていきたいです。

「心」を研究する

高川莉奈

心理学4年(刈谷高等学校出身)



心理学と聞いて、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。心理テスト?メンタリスト?心理学講座では、こうしたことは扱いません。私たちは、「あの人が今何を考えているのか」ではなく「なぜ人はこういう行動をとるのか」、その心の仕組みを理解することを目標としています。そのために、仮説を立て、実験を行い、データを分析し、考察します。心理学講座では、2年生の時に基礎実験演習で実験の組み立て方を学び、3年生にかけて専門的な実験をいくつか行うことで、自分の研究したいテーマを見つけます。そして4年生になると自分の好きなテーマでオリジナルの実験を行います。「実験なんて難しそう...」「数学や理科が苦手なだけど...」そんな方でも大丈夫。先生方や先輩方が、基礎から

丁寧に教えて下さいます。

心理学講座の特徴は、非常に幅広い研究ができることです。学部生でも、ラットを使った実験や人の脳波を測る実験など、様々な研究を行うことができます。今はまだ自分の研究したいテーマが決まっていなくても、講義や演習を通して自分に合ったテーマを見つけられるでしょう。

また、学生同士の仲がいいことも心理学講座の特徴です。同期と研究室でお喋りしたり、授業後にご飯を食べに行ったり…。さらに大学祭での出し物や夏休みの旅行を通して、先輩や後輩とも仲を深めることができます。

学業もプライベートも充実できる、心理学講座にぜひお越しください。

迷ったらやってみる

大西美佐歩

神戸市教員
考古学 2017年度卒業



みなさんは、大学生と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。研究、講義、部活・サークル、アルバイト、いろいろあると思います。

私は入学当初、陸上部に入りたい、考古学を学びたい、先生になりたいと、欲張りなことに3つもやりたいことがありました。多くのことに挑戦することは、しんどいこともありました。もちろん失敗もしました。けれど、その分、多くのことを学ぶことができました。そして何より、多くの人と出会うことができました。これらは、就職した今、自分にとっての大きな財産になっています。やらなくてよかったと思うことは何一つありません。全て挑戦してよかったなと思っています。

もし、この文章を読んでいる人の中に、自分は特にやりたいことがない、という人がいれば、是非、名

大文学部でいろいろな講義を受けてみてください。きっとやりたいことが見つかります。

どんな経験も必ず、みなさんが就職したとき、そしてこれから生きていくうえでの大きな財産になります。無駄なことなど一つもありません。だからどんなことでも少しでも興味を持ったら、まずやってみてください。無理だったら無理でいいじゃないですか。失敗したっていいじゃないですか。それが自分の成長に繋がるのだから。何もせずにいるよりずっとマシだと思います。

だから、迷ったらやってみてください。そうすれば、きっとみなさんの大学生活はとても充実したものになります。

みなさんの大学生活、充実したものにしてください。

大学院在學生・修了生からのメッセージ

願わくは如来の第一義を解せん



塩田 宝澗
インド哲学 博士後期課程2年
立正大学仏教学部
2014年度卒業

私は、人文学研究科でインド哲学を専攻し、東南アジアに流布したパーリ文献を中心に仏教の研究をしています。インドで誕生した仏教は、中央アジアや中国、朝鮮半島を経由して日本に伝播した北伝仏教と、スリランカやタイ、ミャンマー等の東南アジアにも伝播した南伝仏教に大まかに分けられます。先師の解釈やその地域の宗教との融合によって、地域ごとに異なる仏教の姿を見ることができず。

仏教は、日本文化を構成する大事な要素の一つであり、実際に今、生きている宗教でもあります。それぞれの時代や地域における仏教の個性を紐解きつつ、時代や地域に関係なく、何故仏教が人々に受け継がれてきたのかを考察していくことが、目下の私の目標です。

大学院の授業では、ひとつのテキストをじっくり読み、そこに何が書かれているのか、正確に読み取れるよう訓練を積み重ねていきます。取り組むテキストも多岐にわたり、扱った言語もサンスクリットだけでなく、チベット語やパーリ語、漢文と様々です。辞書や先行研究を手にも、日々テキストに向き合っています。

「無上甚深微妙法 百千万劫難遭遇 我今見聞得受持 願解如来第一義」——これは日本の僧侶がお経を読む前に唱える開経偈です。仏教の研究をしていると、まさに「如来の第一義（お釈迦様の一番大切な教え）を解せん」という思いが込み上げてきます。テキストとの対話を通じて「如来の第一義」を少しでも理解できるよう、日々精進していきたく思っています。

女性である国境を超える



楊 佳嘉
日本文化学 博士後期課程2年
山西師範大学外国語学部
2011年度卒業
廈門大学外国語言語文学研究科
2015年度修了

私の研究課題は東アジアの女性知識人と近代の知です。東アジアを視野に入れながら、主として戦間期における日本と中国の越境した女性知識人たちが生産した「文化の知」について、比較研究を行っています。

大学院に入ろうと思ったきっかけは、学部3年の頃日本の女性作家樋口一葉の作品に感動し、もっと勉強したいという気持ちを持ったことにはすぎませんでした。しかし、大学院に入ってから、さまざまなアカデミックな訓練を通して、物事を考える思考の回路がだいぶ変わりました。「何」とどまらず「なぜ」という問いも重要で、「結果」より「どのようにこの結果に至ったのか」と過程を確認し、「そうなんだ」より「本当にそうなのか」と考えてみるような、現状を安易に受け止めない、

客観的、批判的な思考力の重要性をしみじみと感じました。このような思考のアプローチは研究に必要不可欠なものの、普段の生活の中で物事を分析する際にもよく役に立ちます。

グローバル化した今の時代において、昔とは違い、国境、地域の境界線を越えて、物理的な越境が容易に可能になり、学術領域における境界線も不明になっています。私もそのおかげで、一人の女性として、国境を超える越境者として、地域横断性、学際性に富む日本文化学講座で研究をしています。国家、ジェンダー、民族を超え、知に対する情熱を持って、未知の世界の探求に打ち込む大学院に入ってみることをお勧めします。

研究職を目指す上で最高のスタートライン



本多 尚子
北海道教育大学札幌校 准教授
英語学 博士後期課程
2013年度修了

私は現在、北海道教育大学札幌校において、学部・大学院共に英語学専門科目を中心に授業を担当し、国際交流や中学・高校教員向け講習といった地域貢献活動も行っています。

現在の研究については、大学院生時より受動文や虚辞構文の史的発達についての研究に継続的に取り組み、昨年度も全国規模の学術誌にその成果の一部を論文として発表しています。加えて、最近では、二重比較構文に関する史的統語研究というテーマのもと、学外より競争的資金を獲得し研究している他、国際的な学術誌への論文発表にもチャレンジしています。大学教員として教育活動や国際交流・地域貢献活動等に関する職責も果たす中、研究活動を着実に実施しその成果を定期的に発表することができるのは、大学院生時に授

業等を通して身につけた研究者としての資質と倫理、そして、当時より、先生方や周囲の方々の御指導や御助言のもと、全国規模の学術誌への論文掲載や学会発表の経験を積むことができたことが大きな支えとなっています。実際、私以外にも英語学研究室のOB・OGの多くが様々な大学で研究者として働いており、現在でも互いに交流・切磋琢磨しています。

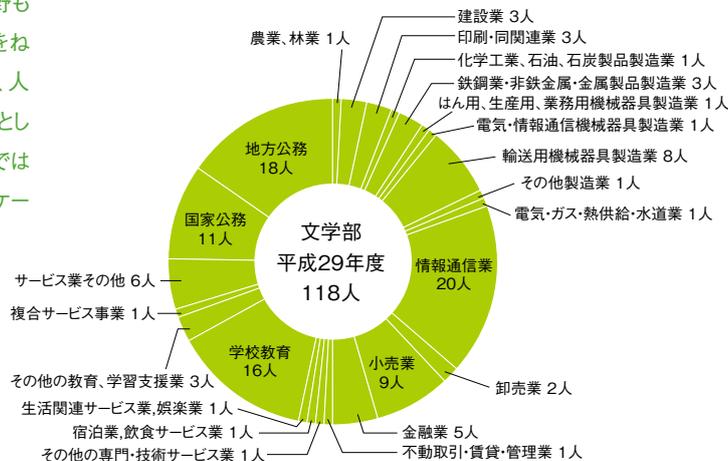
最後に、素晴らしい先生方や研究室のメンバー、OB・OG、研究を支える充実したカリキュラムや環境等、名古屋大学英語学研究室が私達に与えてくださったその全てが研究者としての自らの成長の礎となり現在（いま）があります。大学院（研究職）を目指す皆さんを私達の一員として新たに迎えられる日を心待ちにしています。

社会へ 社会のさまざまな分野で活躍する卒業生たちの姿を追ってみよう。

文学部

就職状況

名古屋大学文学部にはさまざまな学問分野がありますが、どの分野も共通して、人間の感性と知性についての深い理解を身につけることをねらいとしています。文学部の卒業生たちは、論理的な思考力を持ち、人間の意識と行動についての総合的理解を身につけた有為な人材として、民間企業、公務員などのさまざまな分野で活躍しています。最近では大学院へ進学し、2年間の博士前期課程を修了した後に就職するケースも増えています。



平成29年度卒業生の主な就職先

民間企業等

株式会社ITAGE
株式会社NTTデータ
株式会社アマノ
株式会社安藤・間
株式会社イノアックコーポレーション
株式会社エス・ディー・シー
株式会社大垣共立銀行
株式会社オービック
株式会社キクチマガネ
株式会社キャッチネットワーク
株式会社神戸製鋼所
株式会社サンゲツ
株式会社しちだ教育研究所
株式会社じょぶれい
株式会社スターインフォテック
株式会社竹中工務店
株式会社チチカカ

株式会社デンソー
株式会社東海理化
株式会社ネオテック
株式会社フリースタイルエンターテインメント
株式会社プリンスホテル
株式会社メニコン
株式会社リーガルビジョン
株式会社DNA
株式会社Donuts
株式会社NTTドコモ
株式会社イープラス
株式会社エンリッジョン
株式会社オティックス
株式会社カケハシ スカイソリューションズ
株式会社中日新聞社
株式会社ニトリ
株式会社ビックカメラ

株式会社ブラッツ
株式会社講談社
株式会社集英社
株式会社湘南ゼミナール
CKCネットワーク株式会社
DNP田村プラスチック株式会社
DOWAホールディングス株式会社
アイシン・エイ・ダブリュ株式会社
アイシン精機株式会社
愛知県農業協同組合中央会
アビーシステムズ株式会社
イオンリテール株式会社
キャブ株式会社
公正取引委員会
国際紙パルプ商事株式会社
国立大学法人富山大学
国立大学法人名古屋大学

サイオス株式会社
ジェイテクト株式会社
高砂電気株式会社
東京窯業株式会社
東邦瓦斯株式会社
独立行政法人 都市再生機構
豊田ハイシステム
トヨタ紡織株式会社
トヨタホーム株式会社
豊田合成株式会社
トランスコスモス株式会社
名古屋農業協同組合
西尾信用金庫
日本放送協会
農林中央金庫
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
楽天株式会社

公務員

長野県庁
豊川市役所
豊田市役所
名古屋国税局
名古屋市
三重県庁
総務省中部管区行政評価局
東海財務局
東海農政局

裁判所
厚生労働省愛知労働局
厚生労働省富山労働局
京都市役所
石川県庁
伊勢市役所
愛知県警察
愛知県庁

教員

愛知県教員
愛知県立明和高校
愛知淑徳中学・高等学校
岐阜県教員
神戸市教員
長野県教員

取得できる資格

学士の学位を得ることに加えて、必要な単位をとれば、つぎのような免許状や資格を取得することができます。

教員免許状

- 中学校教諭1種免許状
- 国語
 - 社会
 - 英語

- 高等学校教諭1種免許状
- 国語
 - 地理歴史
 - 公民
 - 英語

学芸員

学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得することにより、学芸員となる資格を得ることができます(博物館法第5条)。

これは、博物館における専門的職員の資格要件となる「学芸員資格」を有することで、教育職員免許状とは異なり、免許状のようなものは交付されません。

大学院

平成29年度修了生の主な就職先

文学研究科 博士前期課程

民間企業等

株式会社NTTDコム
株式会社小松製作所
株式会社静岡銀行
株式会社十六銀行
株式会社中日新聞社
株式会社マイナビ
株式会社三松
JR東日本企画
愛知県国際交流協会
小川珈琲株式会社
学校法人 河合塾
交洋株式会社
公立大学法人 名古屋市立大学
国立大学法人 名古屋大学
スタンレー電気株式会社
東芝産業機器システム株式会社
東和不動産株式会社
ナカヤクリエティブ株式会社
新潟万代島総合企画株式会社
富士通株式会社
丸善ジュンク堂書店
ユニテックシステム株式会社

公務員

愛知県庁
犬山市役所
総務省 東海総合通信局
名古屋市役所
西尾市役所
都城市役所

教員

愛知県教員
東京都教員

文学研究科 博士後期課程

民間企業等

株式会社エムエス製作所
株式会社フヂヤ
富士ソフト株式会社

公務員

福井県庁

教員

愛知淑徳大学
中国海洋大学
名古屋大学高等研究院

国際言語文化研究科 博士前期課程

民間企業等

アイシン・インフォテックス株式会社
タイ国元日本留学生協会
株式会社岡村製作所
中部国際空港株式会社
株式会社ザイマックス
株式会社MTG
株式会社くろがね工作所
似鳥(中国)有限公司
株式会社ジール
株式会社スギ薬局
東芝ライフスタイル株式会社
エキサイト株式会社
株式会社中日新聞社

公務員

多治見市役所

教員

愛知県教員

国際言語文化研究科 博士後期課程

民間企業等

国立大学法人 名古屋大学

公務員

なし

教員

名古屋学院大学留学生別科
名古屋大学大学院法学研究科
松山大学
岡山県立大学
江蘇理工学院日本語学科
関西学院大学

取得できる資格

修士の学位を得ることに加えて、必要な単位をとれば、つぎのような免許状を取得することができます。

教員免許状

中学校教諭専修免許状

■ 国語 ■ 社会 ■ 英語

高等学校教諭専修免許状

■ 国語 ■ 地理歴史 ■ 公民 ■ 英語

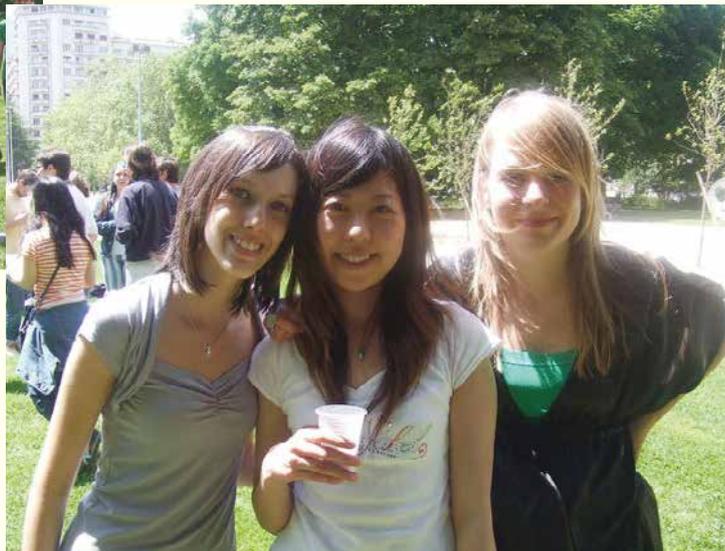
国際交流

海外から学びにやってくる人、海外へ学びにゆく人。学問共同体は国境を越えて広がる。

海外との交流



現在名古屋大学では海外の50カ国の大学、研究所等と学生国際交流を行っています。受け入れ留学生については平成28年5月1日現在で2,079名が在籍しています。本学部では平成29年度に下表に記したように150名を受け入れています。



名古屋大学文学部の過去10年間の留学生数（各年5月1日現在）

留学生数	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	106	119	134	149	154	152	120	138	150	336

留学のすすめ

勉学の場合は学内だけではなく、特に、学生時代に海外で勉強した経験は、貴重な財産となります。国際教育交流センター海外留学室では、留学を目指す名大生のサポートを行っています。そのサービスの一つが留学に関する情報の提供で、海外留学室のホームページ(<http://ieec.iee.nagoya-u.ac.jp/ja>)や各種セミナー・イベント等を通じて、名大生が利用できる留学プログラムを紹介しています。海外留学に興味を持ったなら、まずは「名大生のための海外留学入門セミナー」にご参加下さい。これは学期中の毎週火曜日の12:15～12:45に国際教育交流センター1Fで開かれており、名古屋大学で利用できる留学プログラムやその制度について紹介してい

ます。内容は毎回同じで、一度だけの参加で結構ですし、事前予約も必要ありません。留学に関する情報は、海外留学室内にある図書スペースで自由に閲覧でき、また一部の書籍を借りることも可能です。

名古屋大学の学生が利用できる制度の代表的なものとして、交換留学（一学期以上一年未満の留学）プログラムがあります。以下のリストは全学協定で「授業料不徴収協定」を結んでいる大学一覧になり、これらの大学へ留学する場合、派遣先の大学へ授業料を追加で納める必要はありません。交換留学の募集説明は毎年4月に行われています。交換留学の詳細だけでなく、その他の留学プログラム情報などは海外留学室のホームページをご確認下さい。

名古屋大学が授業料不徴収協定を結んでいる大学には以下のようなものがあります。

中国／南京大学、復旦大学、華中科技大学、西安交通大学、東北大学、同濟大学、浙江大學、上海交通大學、吉林大學、哈爾濱工業大學、
中国科学技術大學、清華大學、北京大學、北京第二外國語學院、上海外國語大學、西安外國語大學

韓国／慶尚大 학교、木浦大 학교、梨花女子大 학교、漢陽大 학교、高麗大 학교、ソウル国立大 학교、慶熙大 학교、延世大 학교、成均館大 학교、
浦項工科大学校、韓国科学技術院、韓国外国語大 학교

タイ／カセサート大学、チュラロンコン大学、チュラポーン研究所／チュラポーン大学院大学

インドネシア／ガジャマダ大学、スラバヤ国立大学、バンドン工科大学

台湾／国立台湾大学、国立政治大学、国立清華大学、国立中正大学、東呉大学

ラオス／ラオス国立大学

オーストリア／インスブルック大学

ブラジル／ブラジリア連邦大学、サンパウロ大学

アメリカ／イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校、シンシナティ大学、セント・オラフ大学、ニューヨーク大学、ノースカロライナ州立大学、ミネソタ大学、
南イリノイ大学カーボンデル校、シカゴ大学、ケンタッキー大学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校、カリフォルニア大学バークレー校

イギリス／ウォリック大学、シェフィールド大学、ブリストル大学、ロンドン大学東洋アフリカ学院、リーズ大学、ケンブリッジ大学セント・ジョンズ・カレッジ

ドイツ／ケムニッツ工科大学、フライブルク大学、ブラウンシュバイク工科大学、ミュンヘン工科大学、アーヘン工科大学

フランス／グルノーブル大学群、ボンゼシヨセ工科大学、パリ第7大学(パリ・デイドロ大学)、リヨン第3大学、ストラスブール大学、パリ東大学、
リヨン高等師範学校

スウェーデン／ウプサラ大学、スウェーデン王立工科大学

スイス／ジュネーブ大学

オーストラリア／シドニー大学、モナシュ大学、南オーストラリア大学、アデレード大学、フリンダース大学、オーストラリア国立大学

ウズベキスタン／タシケント国立法科大学、世界経済外交大学

モンゴル／モンゴル国立大学、モンゴル科学技術大学

カナダ／ヨーク大学、トロント大学、モントリオール大学

デンマーク／コペンハーゲン大学

インド／インド科学大学院大学、タタ基礎科学研究所

イタリア／カタニア大学、ポローニャ大学

カンボジア／王立ブノンベン大学、カンボジア王立農業大学、王立法経大学

ベトナム／ハノイ工科大学、ベトナム国家大学ハノイ

香港／香港中文大学、香港大学

トルコ／ビルケント大学

スペイン／バルセロナ大学

ポーランド／ワルシャワ大学

フィリピン／フィリピン大学ロスバニョス校

ケニア／ナイロビ大学

南アフリカ／ステレンボッシュ大学



入学と勉学のために

入学試験について

文学部の個別学力検査等は次のとおりです。
募集人員は、推薦入試15名、前期日程110名です。

入試教科・科目

【推薦】 書類審査、小論文及び面接

【前期】

1.国語	(国語総合・現代文B・古典B)
2.外国語	(英語、独語、仏語、中国語から1科目。ただし、英語については、「コミュニケーション英語I」・「コミュニケーション英語II」・「コミュニケーション英語III」・「英語表現I」・「英語表現II」の5科目をあわせて出題)
3.地歴	(世界史B、日本史B、地理Bから1科目)
4.数学	(数学I・数学II・数学A・数学B)

試験の日程

【推薦】 2018年11月21日(小論文、面接)

【前期】 2019年2月25日、26日

また、文学部では3年次編入学試験を実施しています。

募集人員は、10名程度です。

なお、3年次編入学試験の詳細については募集要項で確認してください。

募集要項の入手方法

名古屋大学文学部ウェブサイトを確認してください。

<http://www.hum.nagoya-u.ac.jp/examination/examination-sub5/>

奨学金及び入学料・授業料免除

人物・学業ともに優れ、かつ健康であって、経済的理由により修学が困難であると認められる者には奨学金や授業料免除の制度があります。

また、入学前1年以内において、学資負担者が死亡、風水害等の災害を受けた場合などには、入学料免除の制度もあります。

奨学金のうち、文学部生が最も多く利用しているのは日本学生支援機構の奨学金(ただし、この奨学金は貸与されるもので、貸与終了後は返済の義務があります。)です。なお、そのほかにも地方自治体や民間団体による奨学金を受給している者も若干名います。

平成29年度の授業料免除実施状況(文学部)

	在学生数	春学期		秋学期	
		全額免除	半額免除	全額免除	半額免除
1年	133	5	7	5	8
2年	141	7	2	7	4
3年	144	9	7	9	7
4年	172	12	4	15	4
計	590	33	20	36	33

在学生数は、平成29年5月1日現在

日本学生支援機構奨学金の貸与状況

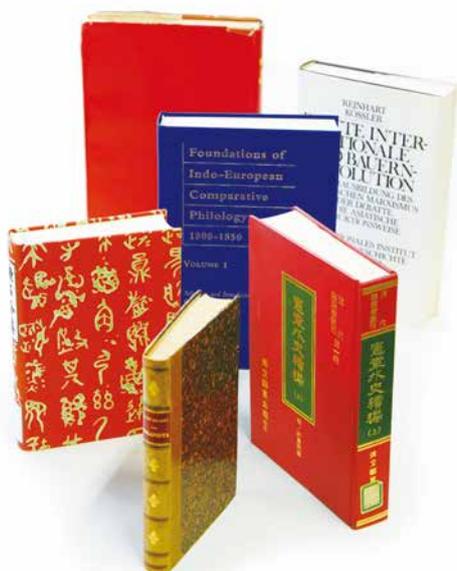
平成29年3月現在

	在学生数	第一種奨学生	第二種奨学生
1年	133	17(1)	10
2年	141	14(1)	9
3年	144	19(0)	6
4年	172	20(2)	11

()内は併用貸与

日本学生支援機構奨学金(平成29年度入学者)

種類	1.大学第一種奨学金 (無利息)	2.大学第二種奨学金 (利息付)
貸与月額	自宅 [30,000円 45,000円	[30,000円 50,000円 80,000円 100,000円 120,000円
	自宅外 [30,000円 51,000円	
希望する奨学金の月額を選ぶことができます。		



入学試験について

人文学研究科の入学試験は次のとおりです。

募集人員は、博士前期課程104名、博士後期課程61名です。

選抜方法

入学者の選抜は、出願書類審査及び学力試験により行います。

一般入試	入試種別	入試日程	試験科目
	博士前期課程第1期	2018年9月11日	外国語試験
			専門試験
		2018年9月12日	口述試験
	博士前期課程第2期	2019年2月13日	外国語試験
			専門試験
	2019年2月14日	口述試験	
博士後期課程(4月入学)	2019年2月14日	口述試験	
博士後期課程(10月入学)	2019年7月中旬	口述試験	

社会人入試	入試種別	入試日程	試験科目
	博士前期課程第1期	2018年9月11日	専門試験
		2018年9月12日	口述試験
	博士前期課程第2期	2019年2月13日	専門試験
		2019年2月14日	口述試験
	博士後期課程(4月入学)	2019年2月14日	口述試験
博士後期課程(10月入学)	2019年7月中旬	口述試験	

※社会人入試は、大学院入学時までに通算2年間以上の社会経験(民間企業、官公庁、学校教育機関、自営業、家事、ボランティア活動などの経験。ただし、研究生および大学院学生としての期間は含みません。)を有する方を対象とします。

募集要項の入手方法

名古屋大学人文学研究科ウェブサイトからダウンロードしてください。

<http://www.hum.nagoya-u.ac.jp/examination/examination-sub4/>

平成29年度の授業料免除実施状況(人文学研究科)

	在学生数	春学期		秋学期	
		全額免除	半額免除	全額免除	半額免除
前期課程1年	108	41(34)	24(21)	41(34)	28(25)
前期課程2年	—	—	—	—	—
後期課程1年	53	1(0)	22(13)	1(0)	23(14)
後期課程2年	—	—	—	—	—
後期課程3年	—	—	—	—	—

()内は留学生

日本学生支援機構奨学金の貸与状況

	在学生数	第一種奨学生	第二種奨学生
前期課程1年	108	3	3
前期課程2年	—	—	—
後期課程1年	53	3	1
後期課程2年	—	—	—
後期課程3年	—	—	—

